

わ せ と ち
早 稻 枋 II 遺 跡

—第1次・第2次発掘調査報告書—

1992.3

岩手県宮古市教育委員会

わ せ とち
早 稲 枋 II 遺 跡

— 第1次・第2次発掘調査報告書 —

1992.3

岩手県宮古市教育委員会

The Miyako Board of Education
Miyako, Iwate, Japan

序 文

宮古市では、これまで400箇所以上もの遺跡が確認されております。縄文時代から江戸時代にまで及ぶ遺跡は市内全域に分布しております。そのなかでも市内北方に位置する崎山地区は、とりわけ保存状態の良好な遺跡群として知られております。その一方で、崎山地区は、近年、市街地周辺地域での種々の開発に伴い事前の緊急調査が増加している地域でもあり、国庫、県費補助を受け崎山遺跡群発掘調査事業が実施されてまいりました。

早稲枋Ⅱ遺跡は、その崎山遺跡群の東隣に位置しており、今回の調査は個人住宅の建築に先立って実施されたものであります。

本報告書は、昭和63年、平成3年に実施した早稲枋Ⅱ遺跡の調査成果をまとめたものであります。調査は、当遺跡の南端にあたる部分で実施され、その結果、堅穴住居跡、石囲炉、土壌、遺物包含層など縄文時代の遺構、遺物が出土しております。

今回の調査で得られたこれらの資料は、当遺跡の範囲、年代を把握するためのみならず「崎山遺跡群」の広がりを見出すうえでも大変貴重なものであります。

この報告書が広く活用され、埋蔵文化財へ理解に役立つ事を期待するものであります。

最後に、調査にあたり様々な御指導、御協力をいただきました関係者各位に衷心より感謝申し上げます。序文と致します。

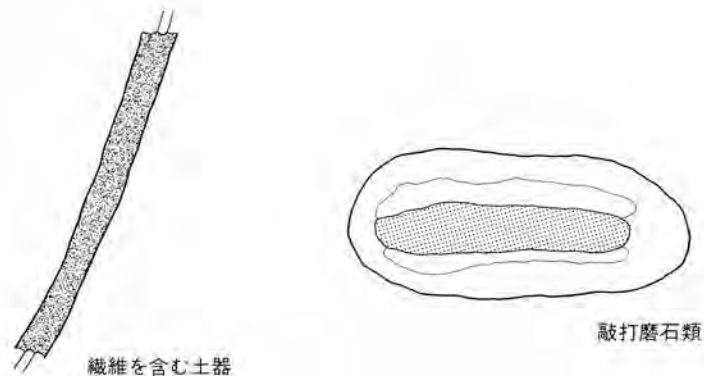
平成4年3月

宮古市教育委員会

教育長 佐藤 勇 逸

例 言

1. 本書は早稲栃II遺跡において実施された昭和63年度第1次調査、平成3年度第2次調査の発掘調査報告書である。
2. 調査の主体は、宮古市教育委員会（第1次調査教育長小野寺聡 第2次調査教育長佐藤勇逸）であり、発掘調査は、第1次調査を高橋、鎌田、盛合、第2次調査を高橋、鶴田、鎌田、阿部が担当し、本書の執筆は阿部が担当、高橋、鶴田、鎌田がこれを補佐した。
3. 調査座標は平面直角座標第X系を座標変換して使用したが、調査用の局地的な座標系であることを明示するためにRを冠して表示した。
座標軸方向 第X系に準じる
調査用座標原点 X -36000,000 Y +96000,000
4. 高さは標高値をそのまま使用した。
5. 遺物の表現については、繊維を含む土器および敲打磨石類の磨面を次のように示した。



6. 土層観察に際しては、「新版標準土色帖」(1990年版)を参考とした。
7. 本文中引用文献の略称は次の通りとした。(すべて宮古市教育委員会刊行)
「宮古市遺跡分布調査報告書1～4」武田将男 1983～86→「分布調査1～4」
「宮古市遺跡分布図 昭和60年度版」武田将男 1986→「分布図86」
「崎山遺跡群 I～V 昭和61年度～平成2年度発掘調査概報」高橋憲太郎 1987～1991→
「崎山遺跡群I～V」
8. 出土した遺物、実測図、写真など調査にかかわる資料は、一括して宮古市教育委員会で保管している。

目 次

序 文	
例 言	
目 次	
I 調査経過	1
1. 調査に至る経過	1
2. 調査要旨	1
3. 調査体制	2
II 遺跡の位置と環境	2
1. 宮古市の地形概観	2
2. 「崎山遺跡群」と早稲栃II遺跡	4
III 調査内容	11
1. 遺構の検出状況	11
2. 検出された遺構と遺物	12
IV 調査のまとめ	31
写真図版	

写真図版目次

- 第1図版 調査区全景、調査区A区
- 第2図版 調査区B区、遺物出土状況
- 第3図版 第2次調査区、第1号竪穴住居跡
- 第4図版 第1号炉跡、炉I、II
- 第5図版 第2号、第3号炉跡、第2号炉跡
- 第6図版 第3号炉跡、土壇跡と柱穴
- 第7図版 第1号墓壇跡
- 第8図版 出土遺物
- 第9図版 出土遺物
- 第10図版 出土遺物
- 第11図版 出土遺物
- 第12図版 出土遺物

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図	3
第2図	地形分類図	5
第3図	周辺の遺跡	6
第4図	周辺の地形図	7
第5図	調査区土層断面図	8
第6図	調査区全体図	9
第7図	A区遺構配置図	12
第8図	A区土層断面図	13
第9図	第1号竪穴住居跡	15
第10図	第1号炉跡、炉Ⅰ、炉Ⅱ	16
第11図	第1号竪穴住居跡出土遺物	17
第12図	第2号、第3号炉跡と柱穴跡	18
第13図	第2号、第3号炉跡	19
第14図	第1号、第2号、第3号土壇と柱穴跡	20
第15図	第2号、第3号炉跡周辺、第1号土壇出土遺物	21
第16図	攪乱域出土遺物	22
第17図	第1号墓壙跡	23
第18図	遺構外出土遺物(1)	25
第19図	遺構外出土遺物(2)	26
第20図	遺構外出土遺物(3)	27
第21図	遺構外出土遺物(4)	28
第22図	遺構外出土遺物(5)	29

I 調査経過

1. 調査に至る経過

早稲橋II遺跡は、宮古市崎嶽ヶ崎7-2-5に所在する、宮古市遺跡コードL G 24-0020、岩手県遺跡コードL G 24-0020として登録された周知の遺跡である。

本遺跡は、宮古市の北に広がる「崎山遺跡群」の東周辺部に位置しており、崎山地区は宮古市でも開発が推進されている地域である。

第1次調査は、本遺跡内における個人住宅建築（昭和63年、伊藤鉄雄より申請）に伴い実施された。第1次調査では、炉跡、土壇、集石遺構、遺物包含層などの存在が確認された。その時点で申請者との間で協議が行われた結果、設計変更がなされ、検出された遺構の一部のみを調査する事となった。第1次調査では、遺物包含層が調査され、そのほかは埋めもどされている。

その後同遺跡内の個人住宅建築の申請が提出され（平成3年8月31日 伊藤鉄雄により申請）、申請者との協議の結果、遺跡の記録保存を前提とした第2次調査を実施するに至った。

2. 調査要旨

◇第1次調査

調査地	宮古市崎嶽ヶ崎7-2-5
調査原因	個人住宅建築（伊藤鉄雄）
調査期間	昭和63年6月7日～昭和63年8月12日
調査対象面積	250㎡
調査面積	250㎡
検出遺構	石囲炉2基、土壇1基、集石遺構、遺物包含層
出土遺物	縄文土器、石器ほか

◇第2次調査

調査地	宮古市崎嶽ヶ崎7-2-5
調査原因	個人住宅建築（伊藤鉄雄）
調査期間	平成3年9月1日～平成3年11月30日
調査対象面積	100㎡
調査面積	100㎡
検出遺構	縄文時代住居跡1棟、時期不明の墓壇（馬）、土壇2基（第1次調査で検出したものは含まない）

3. 調査体制

発掘調査の体制は次のとおりである。

◇第1次調査

調査総括	吉田昌義	宮古市教育委員会社会教育課長
	小本 哲	" 社会教育係長
調査員	高橋憲太郎	" 社会教育係主事（主担当）
	鎌田祐二	" 社会教育係主事
	盛合義信	" 社会教育係主事

◇第2次調査

調査総括	大森 翼	宮古市教育委員会社会教育課長
	山崎吉章	" 社会教育係長
調査員	高橋憲太郎	" 社会教育係主任
	鶴田 均	" 社会教育係主任
	鎌田祐二	" 社会教育係主事
	阿部 豊	" 埋蔵文化財調査員（非常勤、主担当）

調査の実施にあたり、次の各位から多大の御協力を戴きました。

記して感謝申し上げます。（敬称略）

《地権者》伊藤鉄雄

《発掘調査》古館友三、佐々木茂、北村忠治、竹田末人、佐伯裕則、
田崎昭吾、松館喜八、永田美弥子、久保田チエ

《整理作業》古館友三

II 遺跡の位置と環境

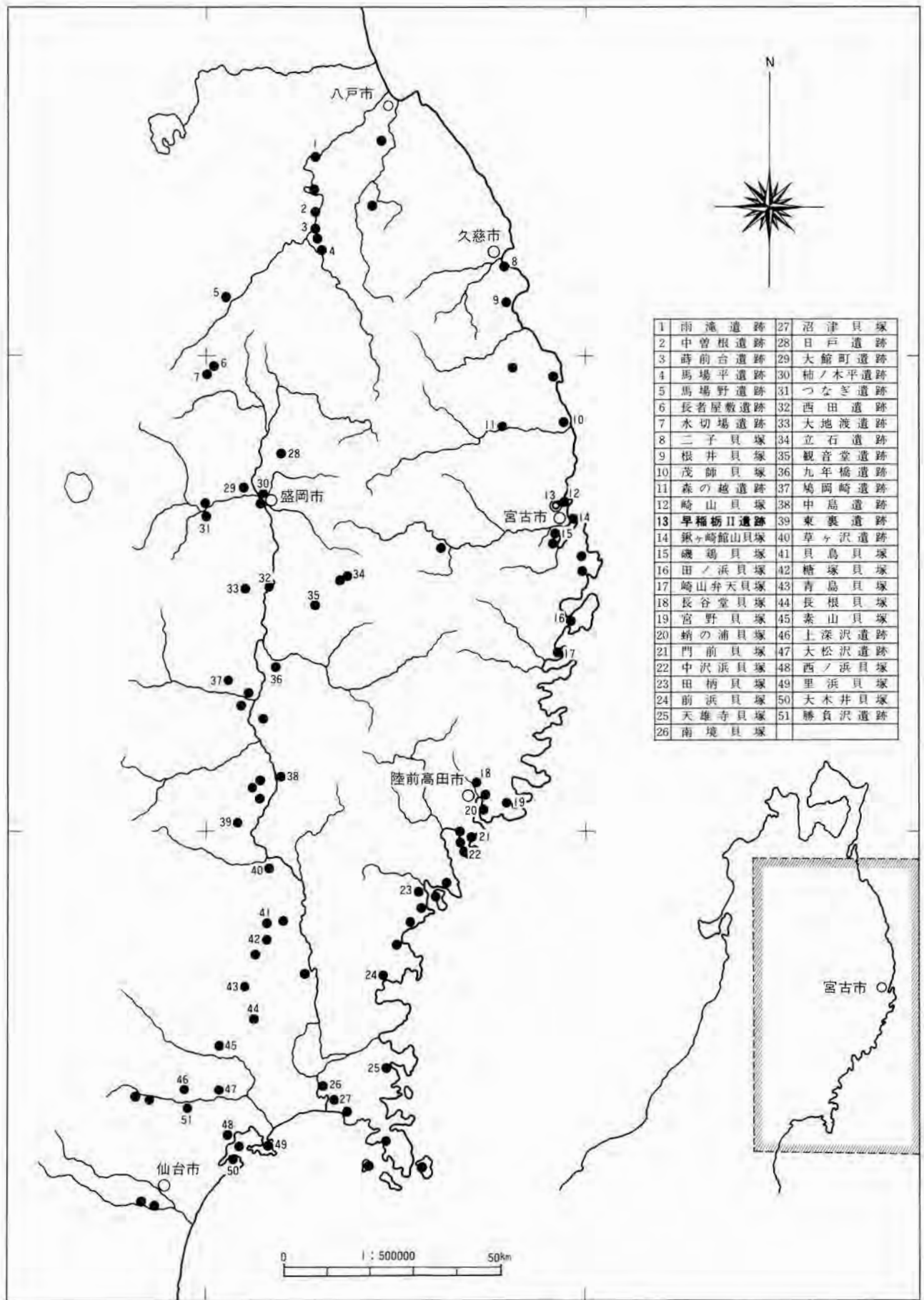
1. 宮古市の地形概観

宮古市は、岩手県沿岸のほぼ中央に位置する。海岸線は宮古市を境にして大きく景観を変える。南の沈降性の海岸線はリアス式海岸として名高く、その入り組んだ地形は大小の湾を形成する。北は隆起性の海岸線を形成し、険しい海岸段丘が続いている。南北ともに多くの景勝地を有することで知られ、国立公園の指定を受けている。

沿岸の数多くの湾には大小の河川が流れ込み、小さな沖積地を形成され、沿岸の市町村はこの沖積地に立地する。北東に向かって開ける宮古湾には、西から閉伊川、南から津軽石川が注ぎ込み、その氾濫平野に現在の市街地が築かれている。

宮古市は、津軽石川から宮古湾の西縁沿いに走る津軽石断層帯を境にして、北上山地から続く西部の中、小起伏の山地帯及び丘陵帯、東部の重茂半島域に2分される。

北上山地は東の海岸に向かって標高を徐々に下げていき、宮古市の西部で標高200mの等高線付近で小起伏山地となる。この小起伏山地を背景に標高100m前後の丘陵地帯が形成され、小本、千徳、八木沢、豊間根の各丘陵に分けられる。各丘陵は面積的に小さく、侵食が進んで



1	雨滝遺跡	27	沼津貝塚
2	中曾根遺跡	28	日戸遺跡
3	蒔前台遺跡	29	大館町遺跡
4	馬場平遺跡	30	袖ノ木平遺跡
5	馬場野遺跡	31	つなき遺跡
6	長者屋敷遺跡	32	西田遺跡
7	水切場遺跡	33	大地渡遺跡
8	二子貝塚	34	立石遺跡
9	根井貝塚	35	観音堂遺跡
10	茂師貝塚	36	九竿橋遺跡
11	森の越遺跡	37	鳩岡崎遺跡
12	崎山貝塚	38	中島遺跡
13	早稲栃II遺跡	39	東裏遺跡
14	兼ヶ崎館山貝塚	40	草ヶ沢遺跡
15	磯鶏貝塚	41	貝島貝塚
16	田ノ浜貝塚	42	糖塚貝塚
17	崎山弁天貝塚	43	青島貝塚
18	長谷堂貝塚	44	長根貝塚
19	宮野貝塚	45	素山貝塚
20	納の浦貝塚	46	上深沢遺跡
21	門前貝塚	47	大松沢遺跡
22	中沢浜貝塚	48	西ノ浜貝塚
23	田柄貝塚	49	里浜貝塚
24	前浜貝塚	50	大木井貝塚
25	天雄寺貝塚	51	勝負沢遺跡
26	南境貝塚		

E 141°

第1図 位置図

E 142°

いるため平面形状は複雑に入り組んだものとなっている。

東部の重茂半島域は、大部分が標高200 m以上の山地帯である。海岸線に沿って丘陵が形成されているが、平坦地は希で、わずかに、小河川により形成された谷底平野が散在するだけである。

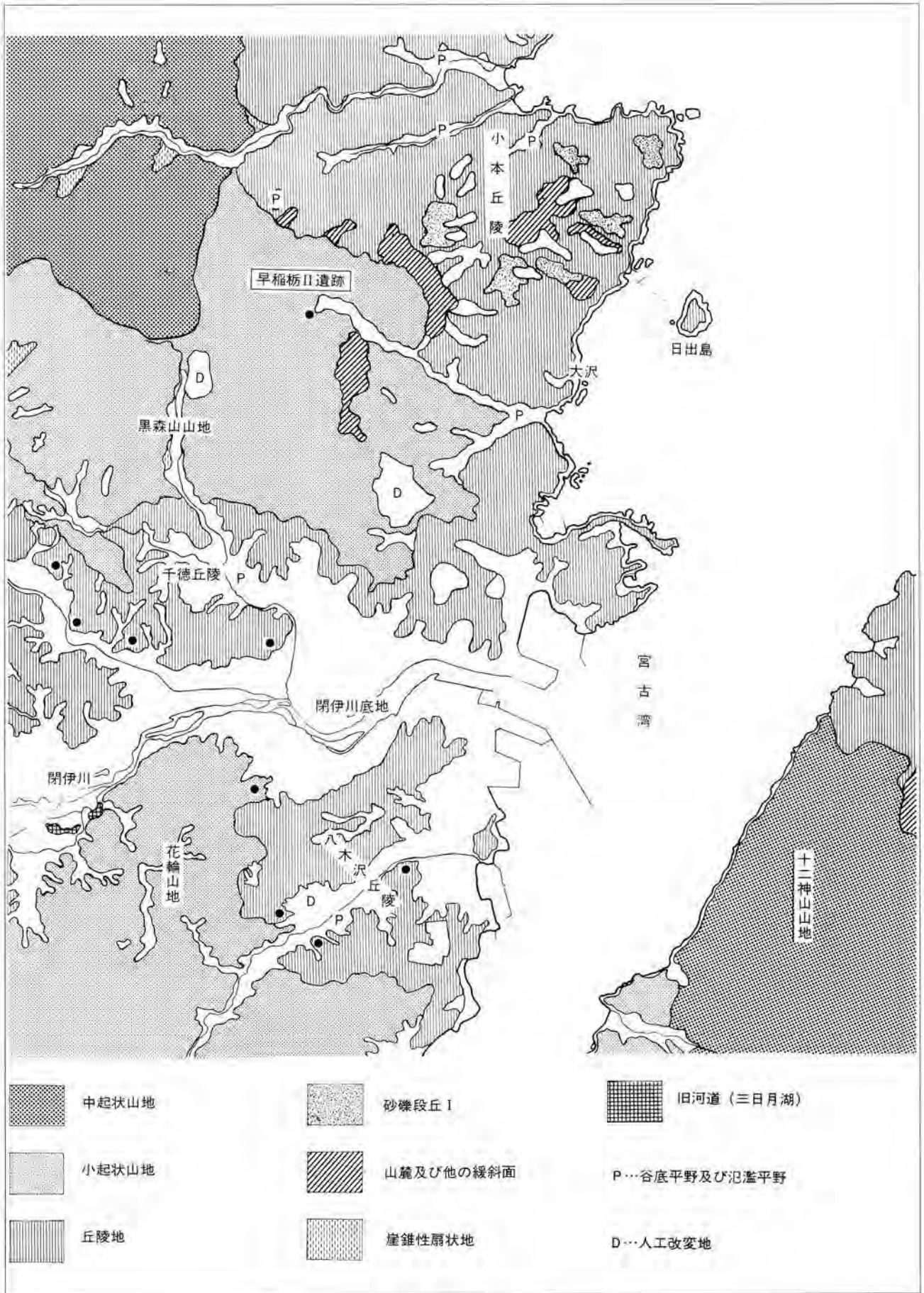
早稲栃II遺跡の周辺は、宮古市の北に連なる黒森山山地（小起伏山地）の北東の縁辺部にあたり、黒森山とその北東の館ヶ森の間を、大沢海岸で太平洋に注ぐメクサレ沢という小河川が流れている。遺跡は、メクサレ沢の上流に形成された標高120 m前後の谷底平野に位置する。メクサレ沢は、遺跡の周辺で2 又に分かれ、遺跡の南西部と北東部を区画している。

2. 早稲栃II遺跡と「崎山遺跡群」

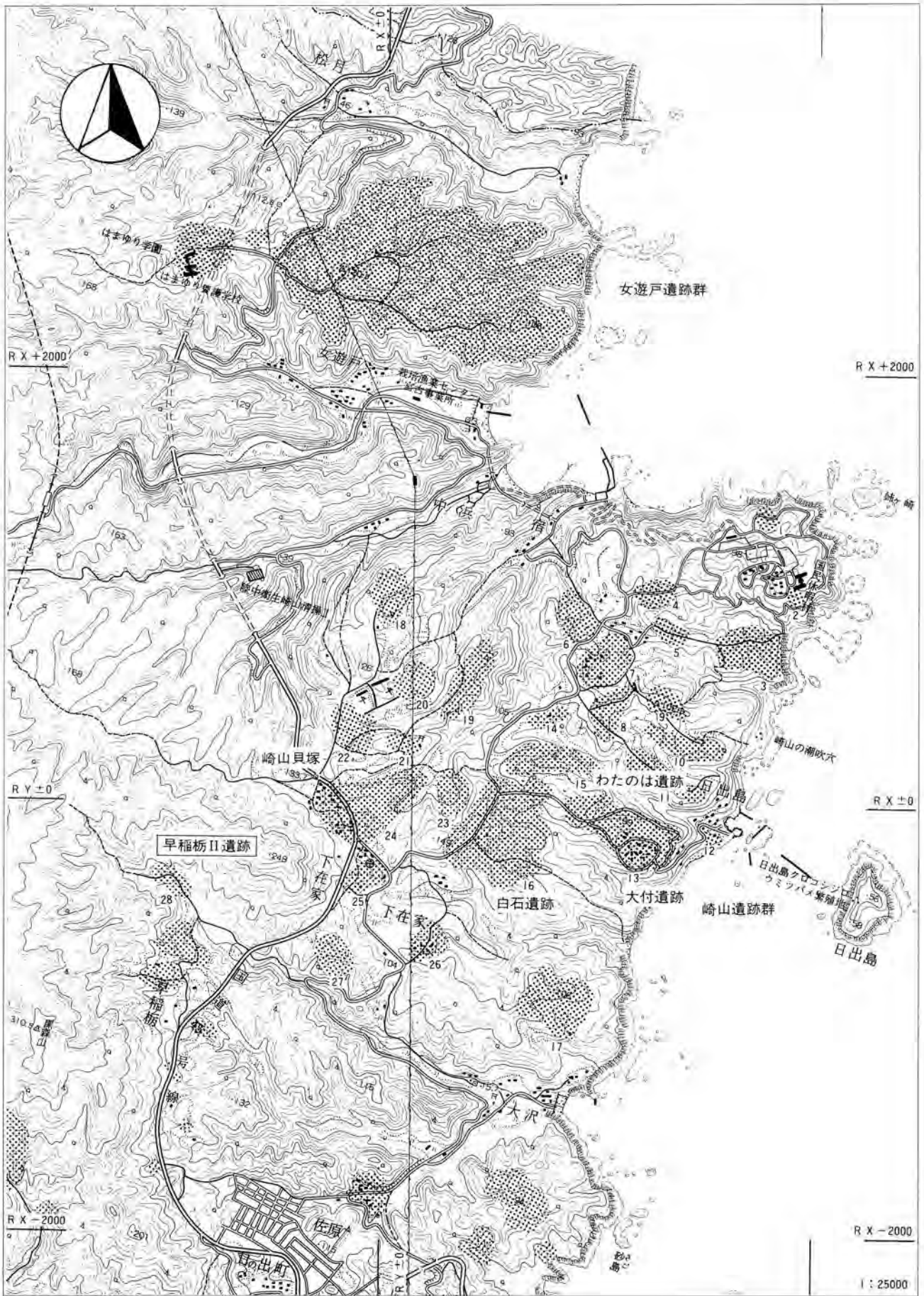
早稲栃II遺跡の北東には太平洋に三角に張り出した丘陵地があり、数多くの縄文時代の遺跡が見つかっている「崎山遺跡群」と称される地域である。

「崎山遺跡群」のなかでも最も西に位置する崎山貝塚では、昭和61年から継続調査が実施されており、環状の掘込を囲む集落跡が確認されるなど、早期～中期中葉にわたる遺跡の全容がほぼ明らかになりつつある。海岸に近い大付遺跡では主に後期、晩期の土器が主体となっており、昭和54年の調査では縄文時代晩期の屈葬人骨が出土している。大付遺跡のすぐ北に位置するわたのは遺跡では、縄文時代中期～後期に伴う土器、石剣が出土している。また、崎山貝塚と大付遺跡の中間に位置する白石遺跡では、縄文時代中期末～後期にともなう堅穴住居跡が検出されている。これらの成果から、崎山貝塚→白石遺跡→わたのは遺跡→大付遺跡という内陸から沿岸へむかう大きな動きが想定されている。（「崎山遺跡群 I～V」）

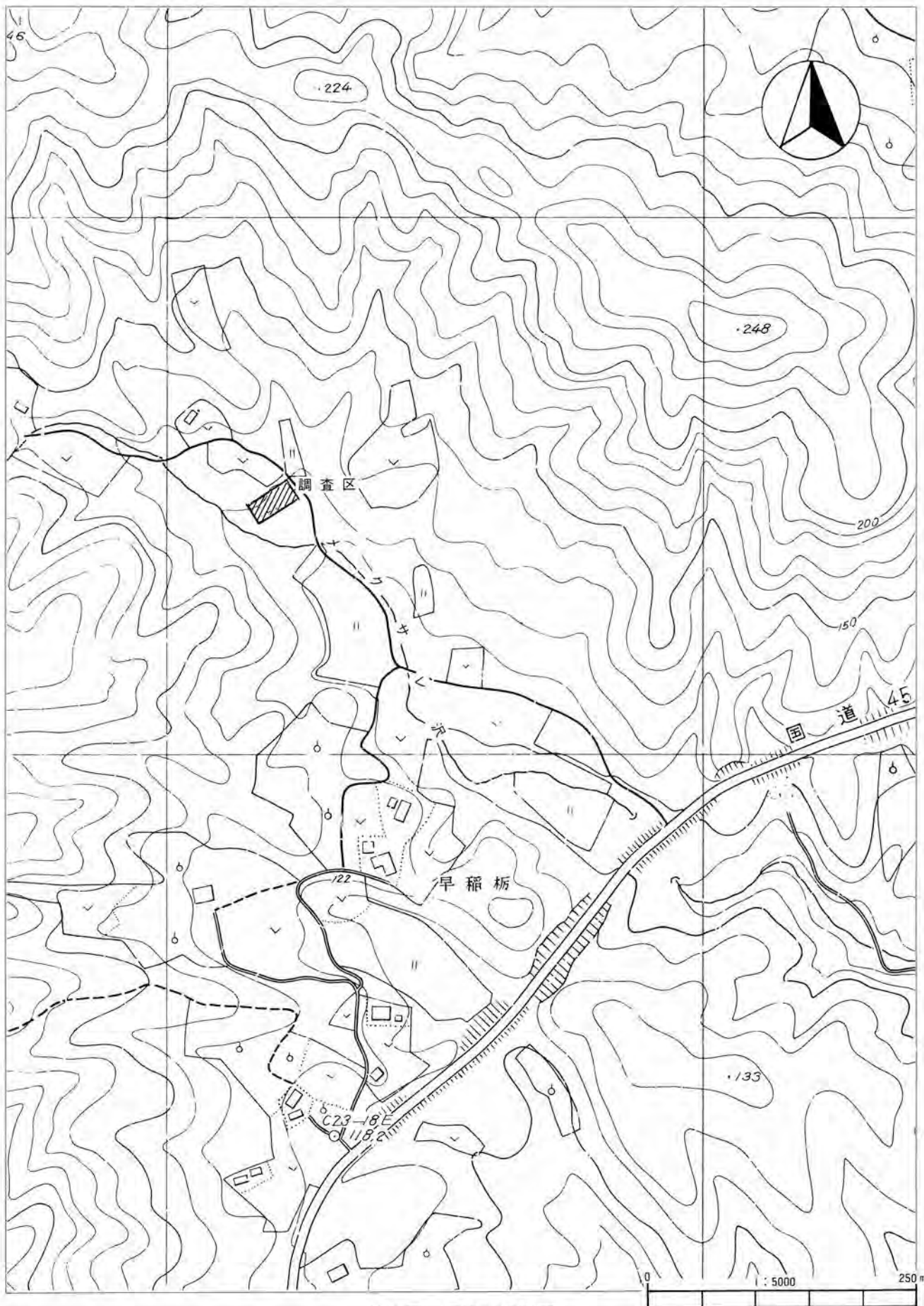
早稲栃II遺跡は、北東の館ヶ森（248 m）から東の海岸に伸びる尾根を挟んでこれらの遺跡群から隔てられているが、最も近い崎山貝塚からは直線距離にして約1 kmのところにある。



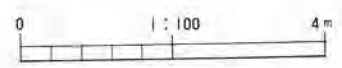
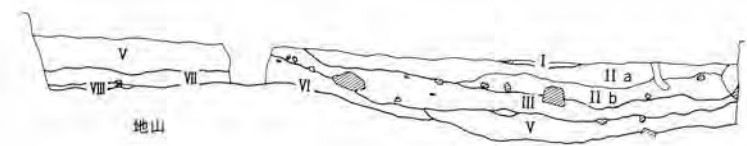
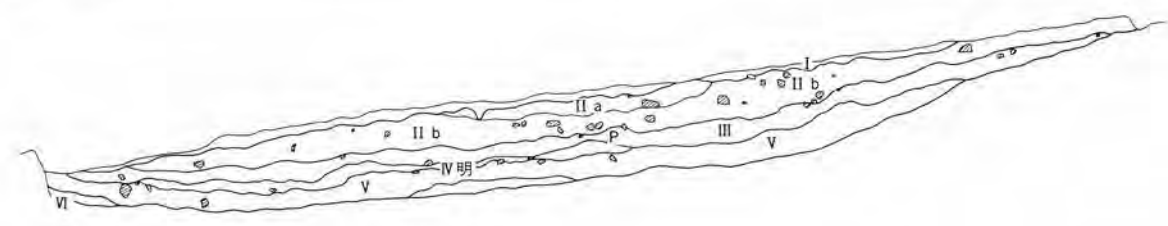
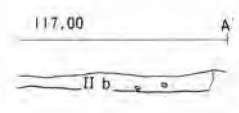
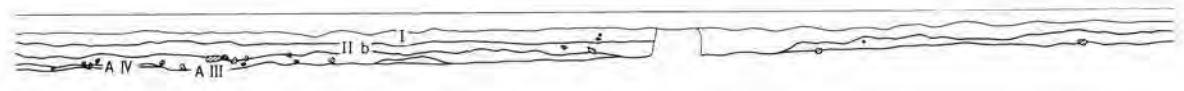
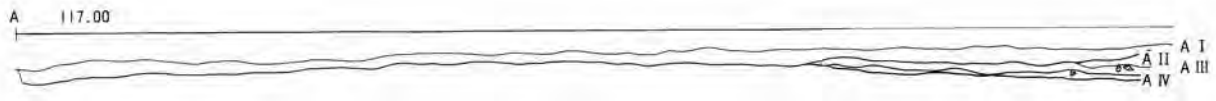
第2図 地形分類図



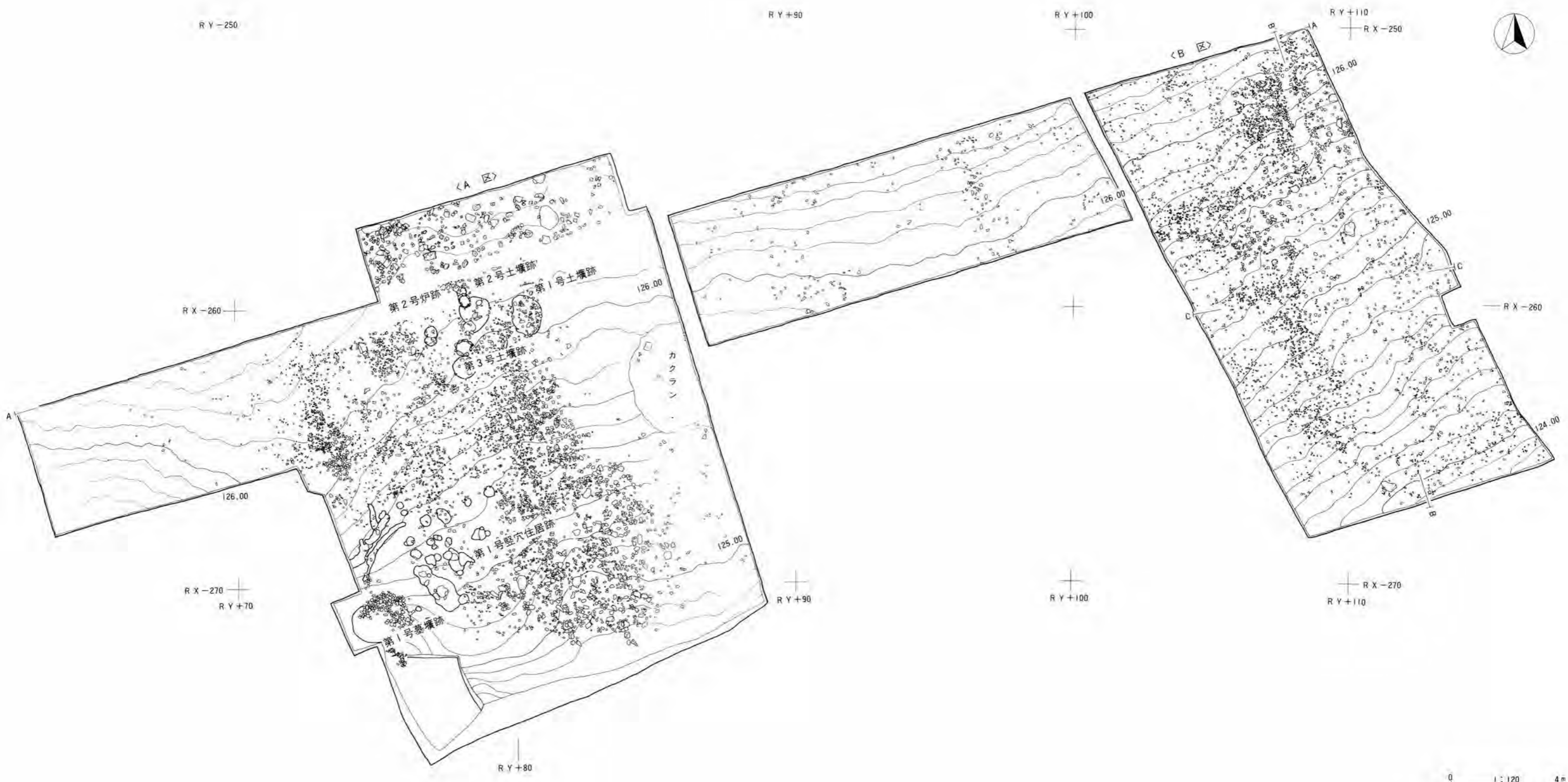
第3図 周辺の遺跡



第4図 周辺の地形図



第5图 调查区土层断面图



第6図 調査区全体図

III 調査内容

1. 遺構の検出状況

調査対象区は、前述したように、小起伏山地に囲まれた谷底平野の南北に伸びる緩斜面の先端部にあたり、メクサレ沢によって両側を画されている。東西に長い調査区を2区に分け、西をA区、東をB区とした。第1次調査では、A区で2基の石囲炉2基、土壙1基、配石遺構(第2次調査で自然の堆積であることが判明した)、B区では遺物包含層が確認され、遺物包含層のみが調査されたことは前述した通りである。第2次調査は、A区を中心に行われ、拡張部から馬の墓壙、住居跡などが検出した。基本層序はI層～VIII層に大別される。

I層：表土層。軟らかめのやや締めりのない暗褐色土。調査区全体に堆積する。

II層：暗褐色土が多量に混じる黒褐色土層である。調査区全体に堆積する。

III層：黒褐色土の混じる褐色土層である。主にB区に堆積する。遺物包含層である。

IV層：褐色土が多量に混じる暗褐色土層である。B区で観察された薄い層である。

V層：固い暗褐色土を基本土とし、礫を多量に含む。遺物包含層である。

VI層：固い褐色土を基本土とし、礫を多量に含む。

VII層：固い暗褐色土を基本土とする層で、グライ化している。

VIII層：地山層。

A区だけで観察された層をA III層、A IV層とした。遺物包含層であるB区のIII層、V層との対応関係は確認できなかった。

A III層：粘性のある軟らかい黒褐色土を基本土とする。

A VI層：粘性のある黒褐色土を基本土とし、にぶい赤褐色土を多く含む。

検出された遺構は、縄文時代の住居跡1棟、石囲炉2基、土壙跡3基、時期不明の馬の墓壙1基、縄文時代の遺物包含層である。

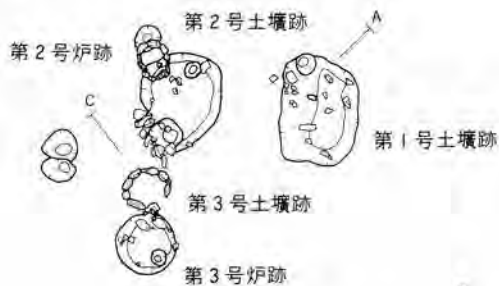
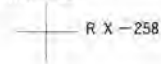
検出面は、住居跡が地山面、石囲炉がA VI層上面、土壙跡はいずれも地山面、墓壙はA III層上面である。A区の礫層は、A III層とA IV層から検出している。

B区の遺物包含層は、III層とV層である。

R Y + 72



R Y + 84

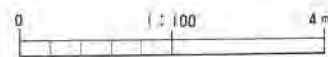


R X - 264



R X - 268

R X - 273

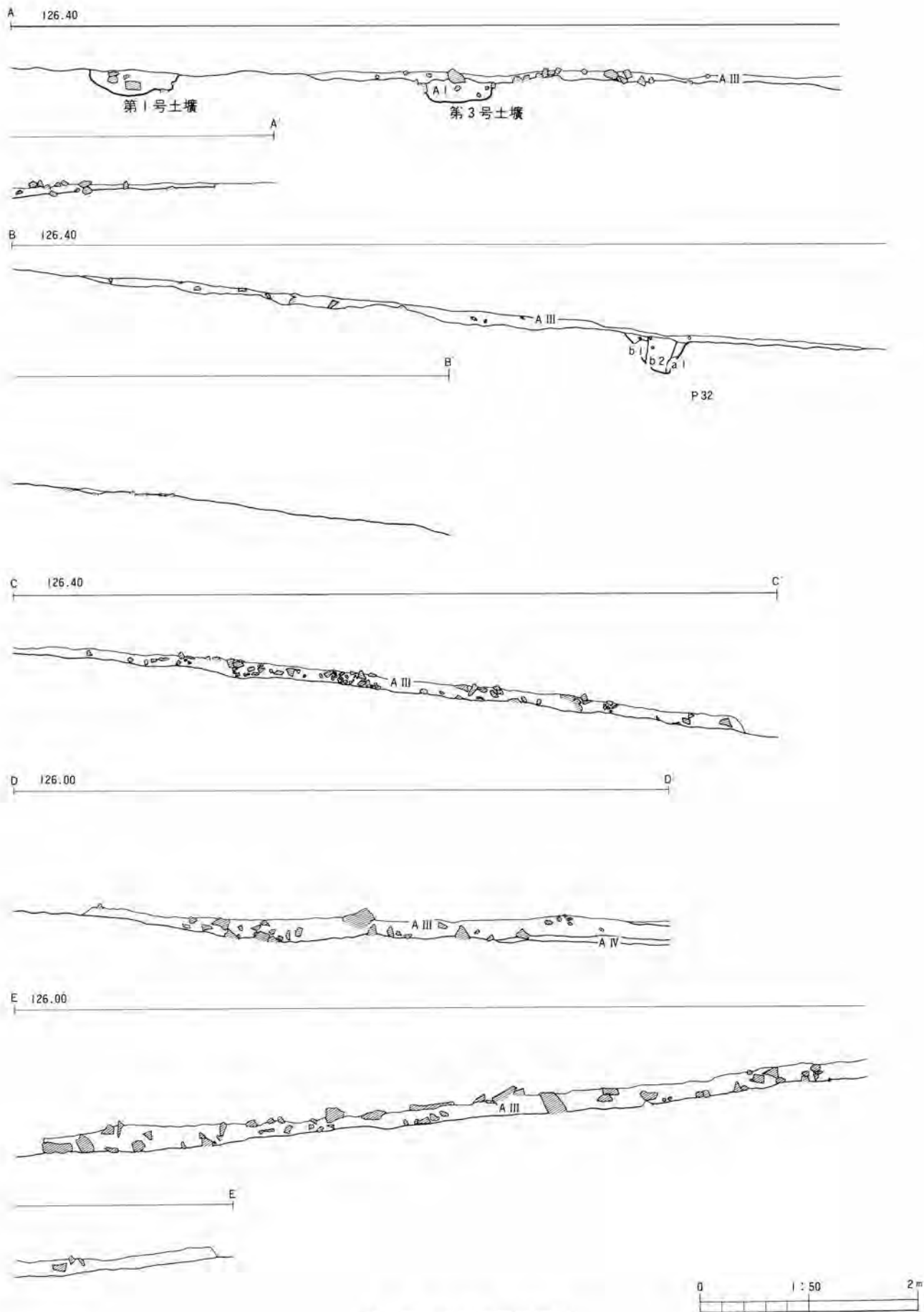


第7図 A区遺構配置図

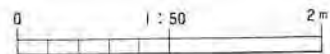
2. 検出された遺構と遺物

第1号竖穴住居跡 (第9図)

遺構は、A区西のほぼ中央に位置する。南北に伸びる緩斜面の端にあたる。炉跡、柱穴、周溝が出土している。検出面は地山面である。壁は検出されず、平面形は不明である。



第8图 A区土层断面图



床面は、柱穴跡の集中するあたりでは平坦であるが、炉跡付近から南にむかってやや下がっている。貼床は検出されていない。

柱穴は、おもに炉の北から検出している。P3、P9、P10、P2が主柱穴に相当するものと思われる、いずれも柱痕跡が確認されている。柱間寸法は、P3とP9が180cm、P9からP10が150cm、P10とP2が165cmを測る。その他炉周辺で、柱痕跡を持つ柱穴が4本確認されている。

第1号炉跡（第10図）

炉跡はA区の南東部に位置し、柱穴群の北に位置する。北西方向に長軸を持つ不整長楕円形の浅い掘り込みのなかで2基の石囲炉を検出している。掘込の規模は、210cm×85cm、深さは最深部で10cmを測る。炉Ⅰでは焼土層と炉石の埋設跡が検出している。焼土の範囲は不整形を呈し、24cm×24cmを測る。炉Ⅱでは、焼土層、炉石の埋設跡、炉石の一部が確認された。焼土層は、不整形を呈し、規模は40cm×40cmを測る。

炉の構築方法は、不整楕円形に掘り込み、東側の床面にK3層を敷いている。床面の掘り方は雑である。炉Ⅰでは地山面を掘り込んで炉石を据え、炉Ⅱでは炉石はK3層と地山面を掘り込んで据えられている。A1層は軟らかい黒褐色土を基本土とし、細礫と炭を少量含む。K1層は炉Ⅰの焼土層で、暗褐色土の混じる固い赤褐色土である。焼土層厚は2cmを測る。K2層は炉Ⅱの焼土層で、暗褐色土が混じる固い暗赤褐色土層である。焼土層厚は3cmを測る。K3層は黄褐色土が混じる固めの暗褐色土である。a1層は、褐色土が混じる軟らかい黒褐色土層である。

周溝跡（第9図）

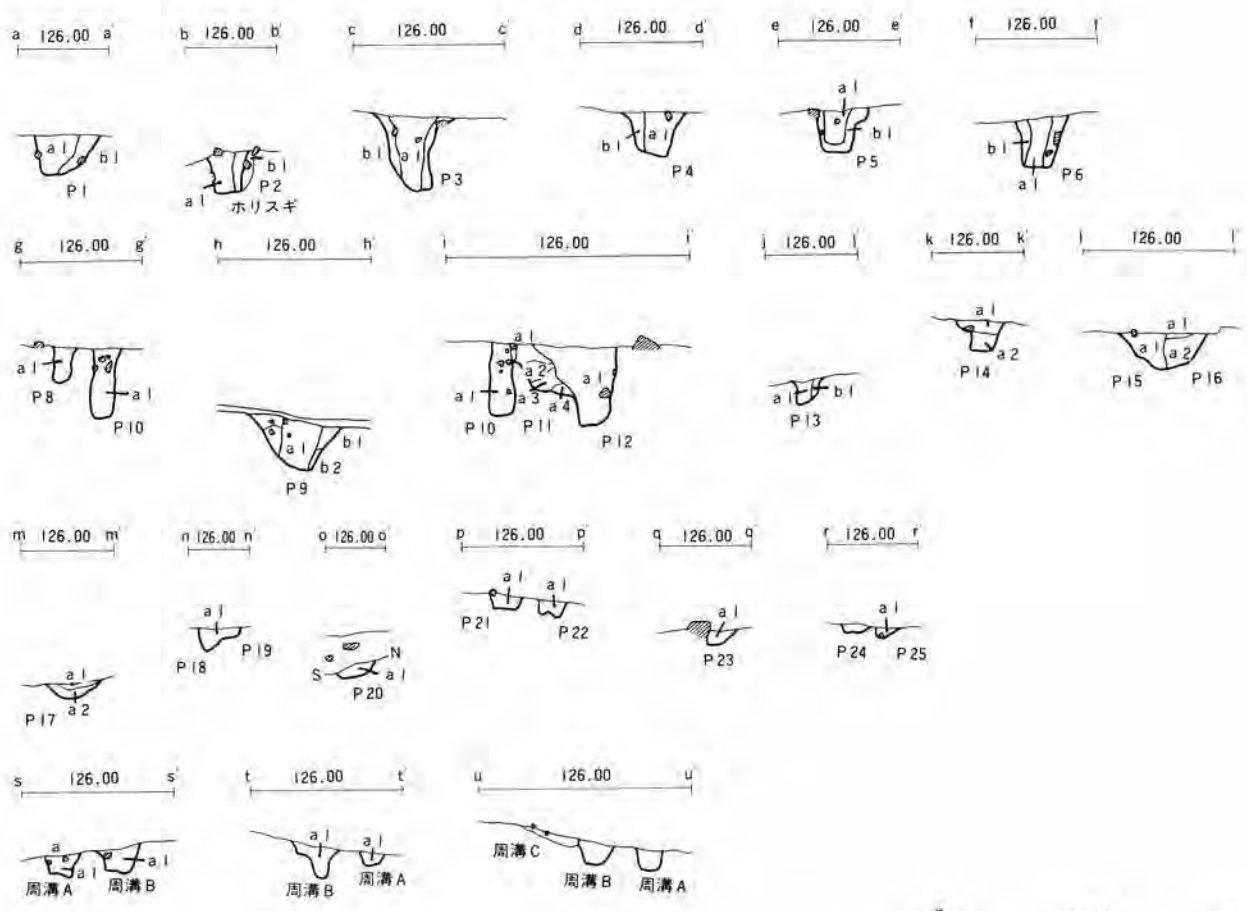
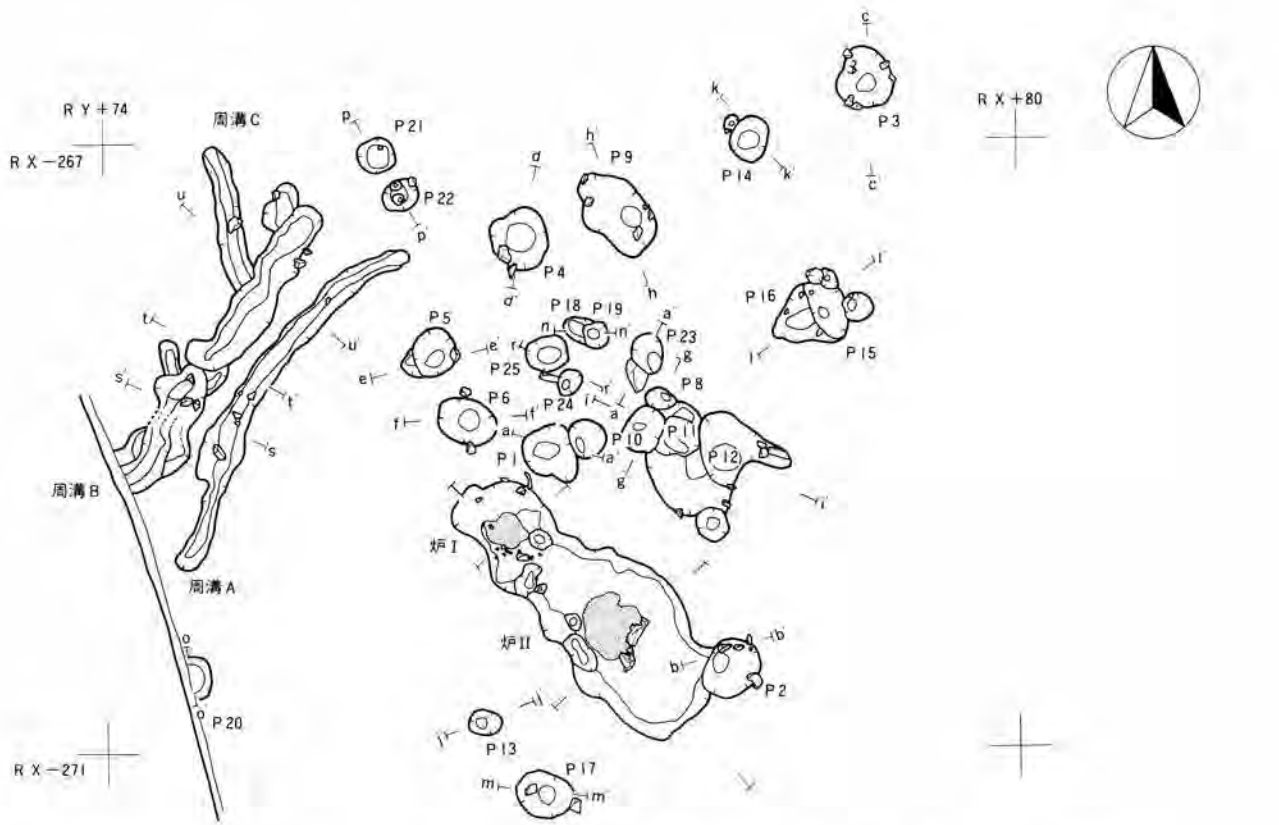
周溝は、第1号炉跡の北東で、3条検出されている。周溝Aの埋土は暗褐色土が混じる軟らかい黒褐色土で、縄文土器片を含む。周溝Bの埋土はにぶい黄褐色土が混じる軟らかい暗褐色土である。周溝Cの埋土は褐色土が混じる軟らかい黒褐色土である。

周溝と炉跡、柱穴跡との位置関係からみて、炉跡、柱穴跡との年代差が考えられる。

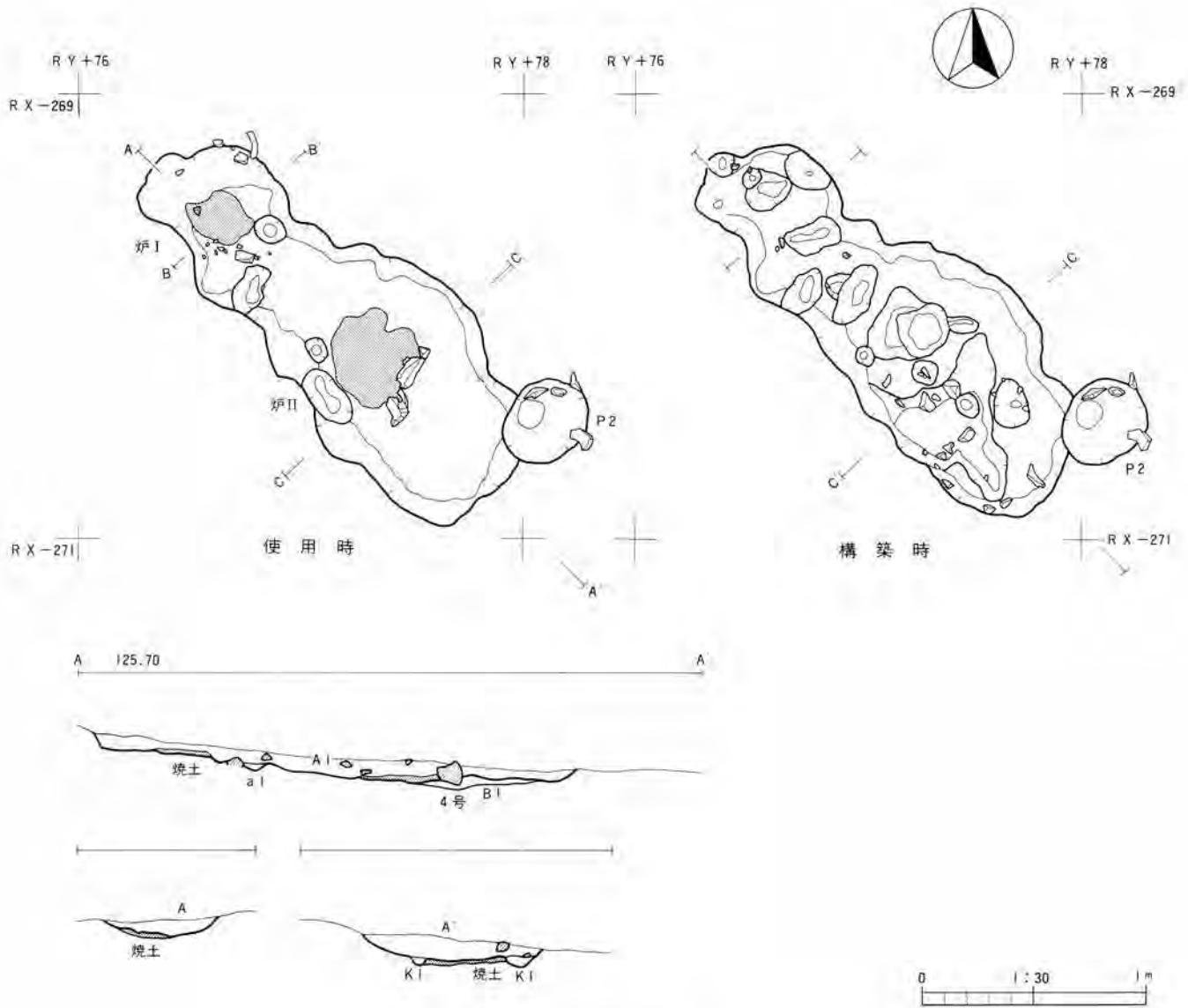
遺物（第11図）

遺物は周溝、炉の埋土、柱穴から出土している。

1、2は周溝からの出土。1、2とも胴部片。1は隆沈線による懸垂文、2は沈線のみを施されている。いずれも大木8b式に相当する。3、4は炉跡の埋土A1層から出土し、3は口縁部で不整撚糸文を、4は羽状縄文をそれぞれ施文される。5、6は柱穴埋土から出土したものである。5は深鉢の口縁部で、撚糸文を施文され、6は細かい縄文を地文とする。



第9図 第1号竪穴住居跡

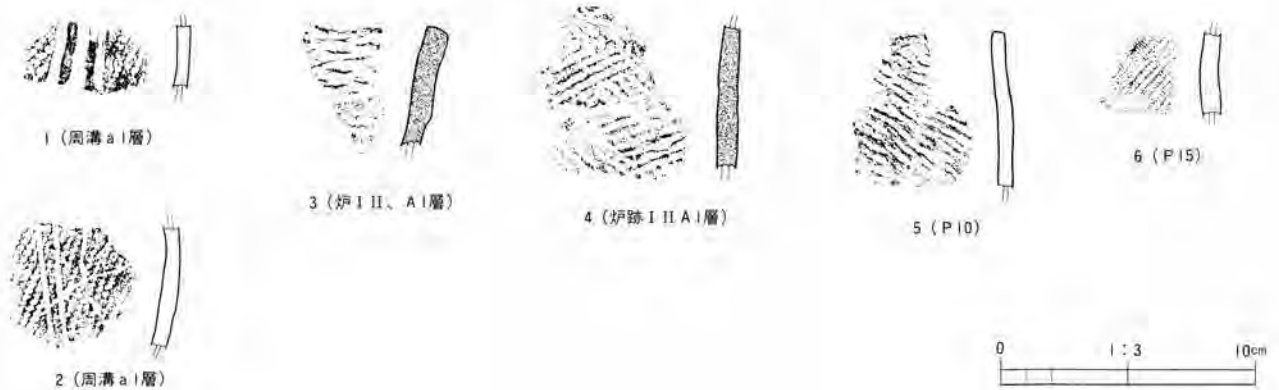


第10図 第1号炉跡 炉I、II

第2号炉跡 (第13図)

A区北の中央に位置する。検出面はA III層下面である。平面形は楕円形を呈する石囲炉である。炉床面の規模は約37cm×27cmを測り、長軸方向はN-30°-Eを示す。

炉の構築方法は、楕円形に掘り込んだあと、南と北の端をさらに掘り窪める。その後炉石を据えながらK 2層をつめている。南半分は第2号土壌の埋土を掘り込んでいる。K 1層は、焼土層で極暗褐色土が混じる固めの赤褐色土であるが、層厚はかなり薄く0.5cm程である。K 2層は、にぶい黄褐色土の混じるやや固めの暗褐色土で炭粒を多量に含む。



第11図 第1号竪穴住居跡出土遺物

第3号炉跡 (第13図)

第1号炉跡の南に位置し、第1号炉との距離は約2mである。検出面はA III層下面で第1号炉跡と同じ検出面である。平面形が、ほぼ円形を呈する石囲炉である。炉床面の規模は、45cm×40cmを測り、長軸方向はN-34°-Eを示す。

炉の構築方法は、円形に掘り込み、掘り込みの上縁に沿って炉石を据えてK 3層を詰めている。

K 1層は埋土層で、固めの黒褐色土層を基本土とし、炭、焼土粒を少量含む。K 2層は焼土層で、赤褐色土が混じる固めの暗赤褐色土であるが、層厚は第1号炉跡と同様にかなり薄く、最大0.5cm程である。K 3層は暗赤褐色土が混じる固めの褐色土層で、小礫を多量に含んでいるのが特徴である。

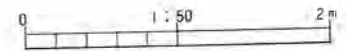
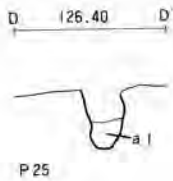
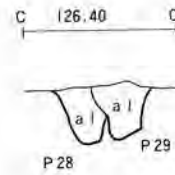
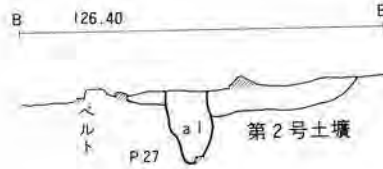
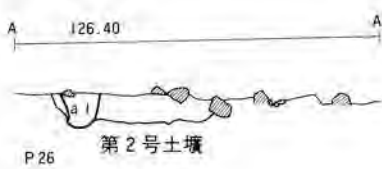
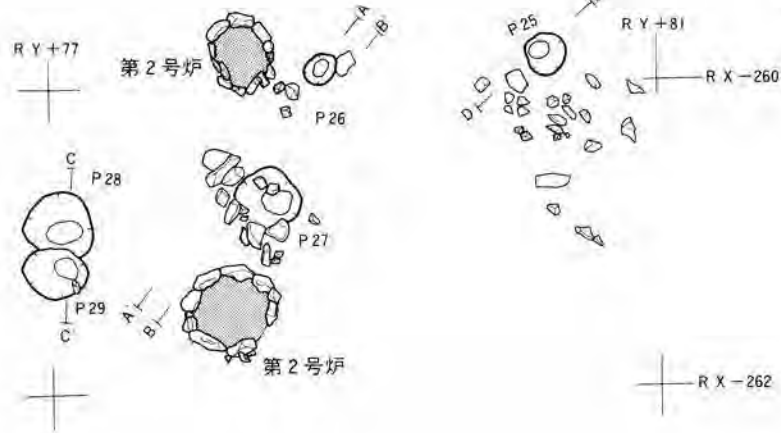
柱穴は炉跡付近で6本検出している。そのうち炉跡と同検出面のものが5本であるが、いずれも柱痕跡は確認されていない。埋土は、軟らかい黒褐色土～褐色土を基本土とする。

土壌跡 (第14図)

土壌跡は炉跡の周辺で3基確認されている。

第1号土壌跡 (第14図)

A区北の東寄りに位置する。検出面はA IV層上面で、平面形は南北に長い不整楕円形を呈し、規模は130cm×100cm、深さは最深部で43cmを測る。埋土は3層に大別される。A層は軟らかい暗褐色土を基本土とし、細礫を含む。B層は褐色土を基本土とし、礫を多く含む。C層は地山のブロック層であり、礫を含む。



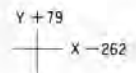
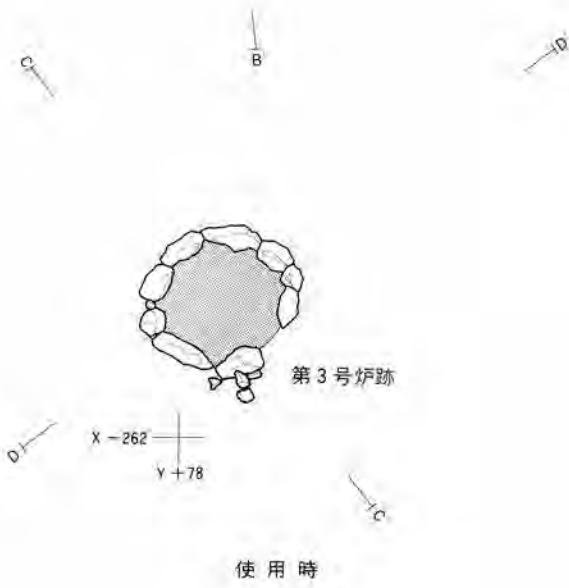
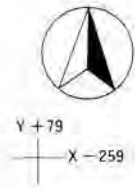
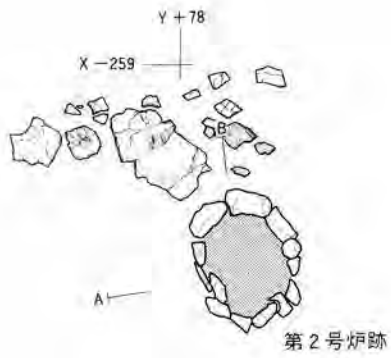
第12図 第2号、第3号炉跡と柱穴跡

第2号土坑跡 (第14図)

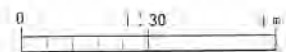
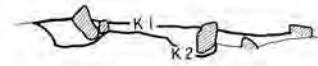
A区北の中央に位置する。検出面はAⅣ層上面で、第1号炉跡、P29、P30に切られている。平面形は不整楕円形を呈し、規模は130cm×105cm、深さは18cmを測る。埋土は固めの黒色土を基本土とし、多量の細礫、微量の炭を含む。

第3号土坑跡 (第14図)

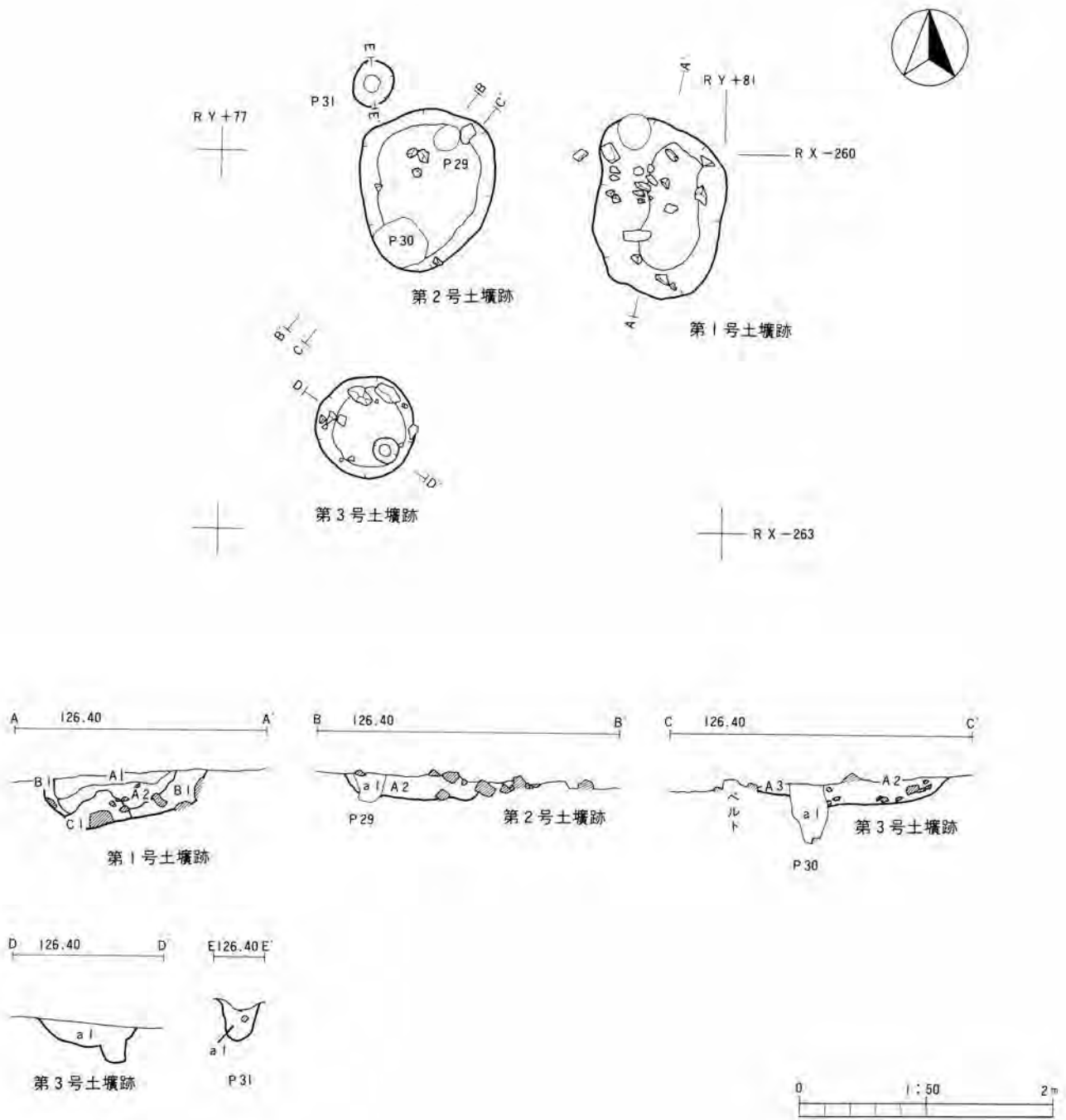
A区北の中央部、第2号炉跡のすぐ南に位置する。検出面はAⅣ層上面である。平面形は円形を呈し、規模は径80cm、深さは最深部で20cmを測る。南の床面に小ビットをもつ。埋土は軟らかい黒褐色土を基本土とし、多量の細礫や縄文土器の小片を含む。



構築時



第13图 第2号、第3号炉跡



第14図 第1号、第2号、第3号土壌跡と柱穴跡

遺物 (第15図)

7~17は第1、2号炉跡と同検出面で、周辺から出土したものである。18、19は第1号土壌跡から出土したもので、20~31はA区東の攪乱域(風倒木?)から出土したものである。



7 (A III層下面)



8 (A III層下面)



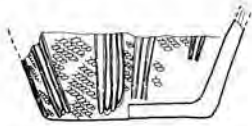
9 (A III層下面)



10 (A III層下面)



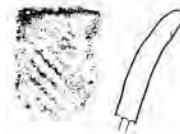
11 (A III層下面)



12 (A III層下面)



13 (A III層下面)



14 (A III層下面)



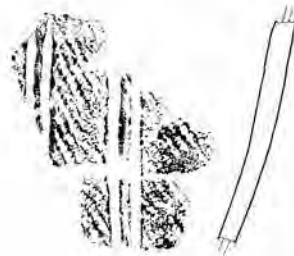
15 (A III層下面)



16 (A III層下面)



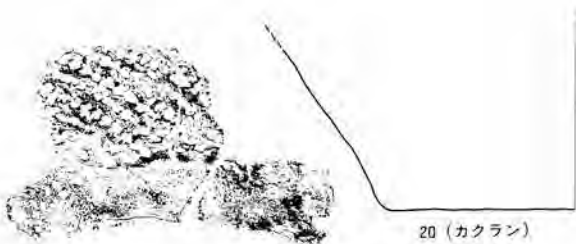
17 (A III層下面)



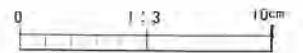
18 (第1号土壤B1層)



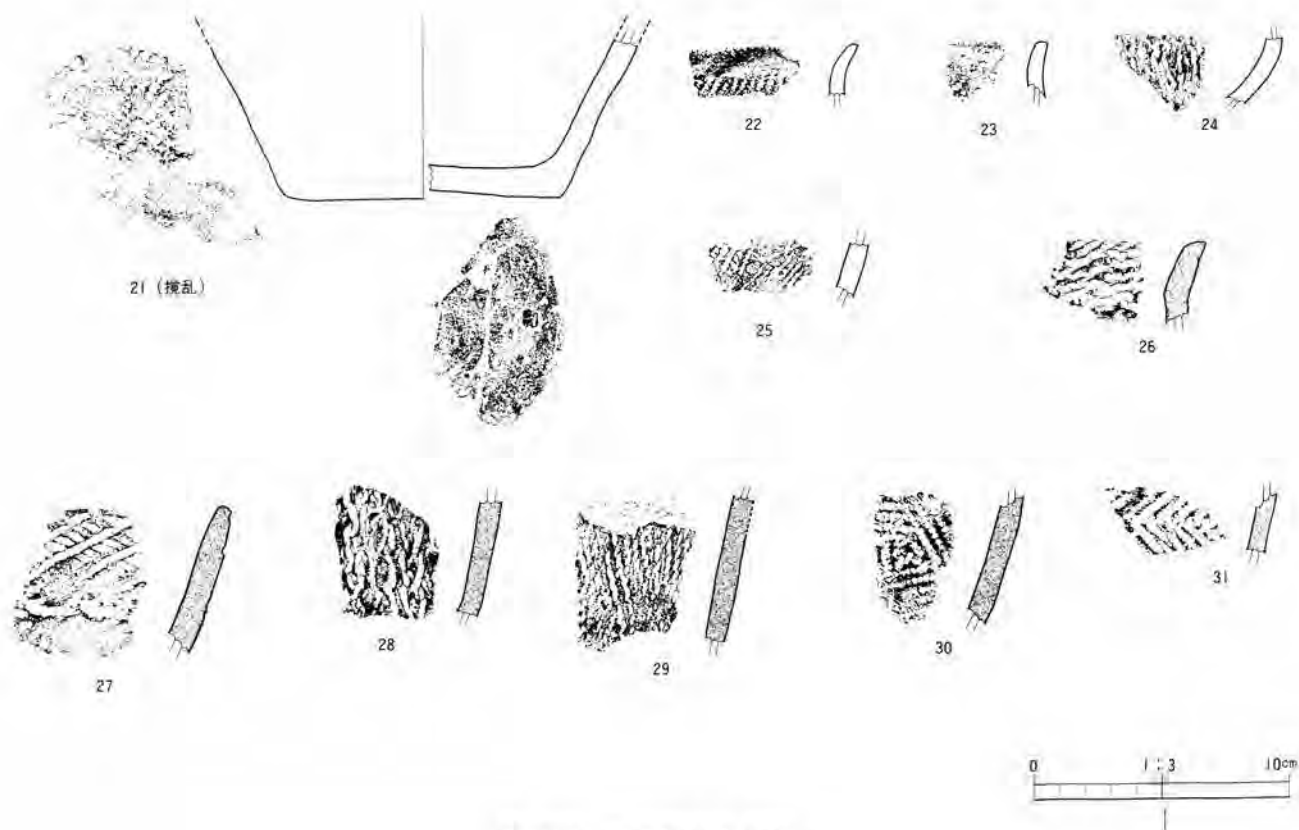
19 (第1号土壤B1層)



20 (カクラン)



第15図 炉跡周辺域、第1号土壤跡出土遺物



第16図 攪乱域出土遺物

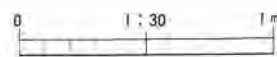
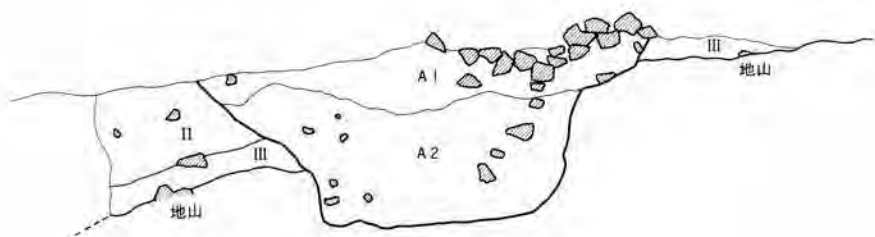
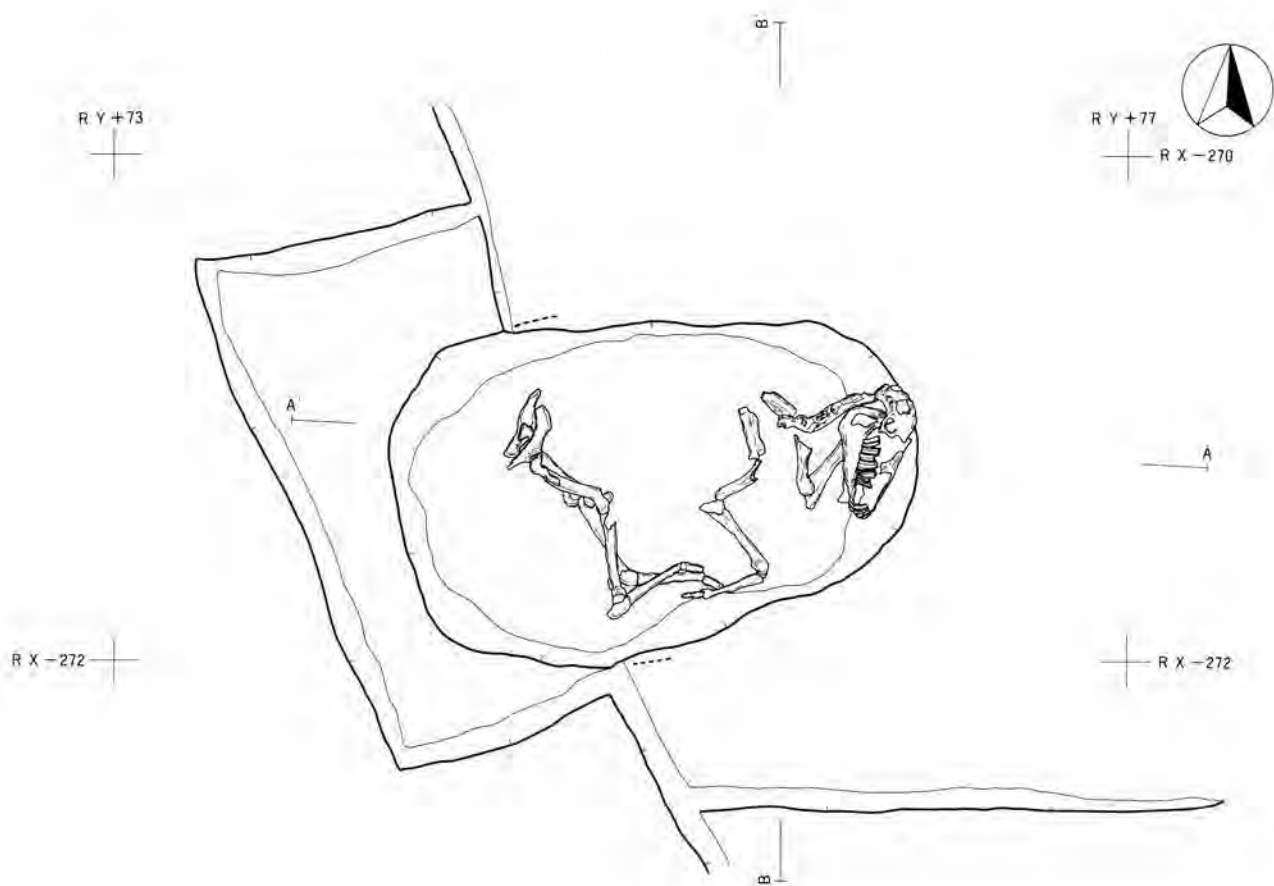
7～11は同一個体と思われる。口縁部の内湾する深鉢で、隆沈線により渦巻文が施文される。12は中型深鉢の底部。隆沈線による懸垂文が施文される。7～12は大木8b式に相当する。13は、波状口縁部の波頂部で、不整撚糸文が施文される。14は、深鉢の口縁部で複合口縁をもつ。15は不整撚文が施文された口縁部片である。17は深鉢の底部で、LRLの複節繩文が施文される。18、19は深鉢の胴部で、いずれも隆沈線による施文である。18、19は大木8b式に相当する。20、21ともに深鉢の底部で、単節LRの繩文が施文される。21は木葉痕をもつ。22、23は深鉢の口縁部で、いずれも口縁部は無文である。24は器形不明で、地文は撚糸文である。26～31は繊維を含む。27は深鉢の口縁部で、末端に結節をもつ付加条繩文による施文と思われる。28～31は深鉢の胴部片で、地文は28、29が撚糸文、30、31は結束する羽状繩文による施文である。

第1号墓墳跡（第17図）

遺構は、A区南の西端に位置する。検出面はII層である。平面形は東西に長い楕円形を呈し、規模は200cm×140cm、深さは約70cmを測る。埋土A1層は、軟らかい黒褐色土層で、小土器片を含んでおり、上層には大量の石が積まれていた。A2層は、褐色土混じりの黒褐色土で、小礫を多量に含む。

ウマの土葬墓墳である。骨は、脊椎骨をのぞきほぼ一体分確認できた。

共伴遺物が出土せず、年代は不明である。



第17图 第1号墓坑跡

遺構外出土遺物（第18図～第22図）

32～46はA区から、47～141はB区からそれぞれ出土したものであるが、47～83がBⅢ層、84～141はBⅤ層から検出したものである。

32、33はI層からの出土品である。

32は無文の深鉢の口縁部、33は小型深鉢の底部である。

34～46はAⅢ層からの出土品である。

34、35は深鉢の内湾する口縁部。地文の撚糸文に隆沈線により渦巻を施文する。36～39は深鉢の胴部片で、36、38は隆沈線による施文である。40～43は深鉢の口縁部で、41は波状口縁の波頂部である。施文は隆沈線による条線文、区画文である。34～36、38、40～42は大木8b式に相当する。43～46は繊維を含む。43、44はS字状連鎖文、45、46は結束する羽状縄文を施文される。47は、口縁部が内傾し胴部が張り出す壺形の土器。粘土紐の貼付、沈線による区画、磨消し縄文を伴う。大木10式に相当する。

48、49は深鉢の口縁部。48は沈線による区画内を刺突文でうめる。49は磨消し縄文による施文。

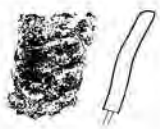
48、49は大木9式に相当する。50～54は深鉢の胴部片。いずれも磨消し縄文を伴い、大木9～10式に相当する。

55は深鉢の内湾する口縁部。56は浅鉢の口縁部。沈線により区画内に縄文を施文。

57～66は深鉢の講演部と胴部で、同一個体と思われる。地文は撚糸文で、隆沈線による区画を施す。67、68も隆沈線による施文であるが、67はLRLの複節縄文を地文とする。69～72は深鉢の口縁部と胴部で、いずれも隆沈線による施文である。55～72は大木8b式に相当する。

73、74は深鉢の胴部で、綾絡文を施文される。75、76は深鉢の外傾する口縁部。いずれも単節RLの縄文を地文とする（75の横線は接合した際の継ぎ目である）。77、78は深鉢の底部で、いずれも地文は縄文で、78は上げ底になっている。

79は深鉢の外傾する波状口縁の波頂部である。器形や、口縁部に原体圧痕文を施すことから長七谷地系統のものと思われる。81は羽状縄文、80、82、83は不整撚糸文による施文である。



32 (A区I層)



33 (A区I層)



34 (A区A III層)



35 (A区A III層)



36 (A区A III層)



37 (A区A III層)



38 (A区A III層)



39 (A区A III層)



40 (A区A III層)



41 (A区A III層)



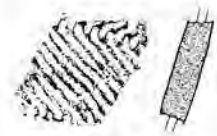
42 (A区A III層)



43 (A区A III層)



44 (A区A III層)



45 (A区A III層)



46 (A区A III層)



47 (B区III層)



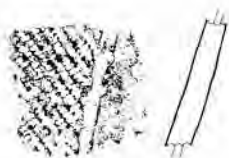
48 (B区III層)



49 (B区III層)



50 (B区III層)



51 (B区III層)



52 (B区III層)



53 (B区III層)



54 (B区III層)



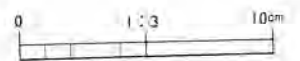
55 (B区III層)



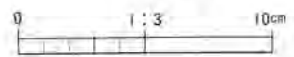
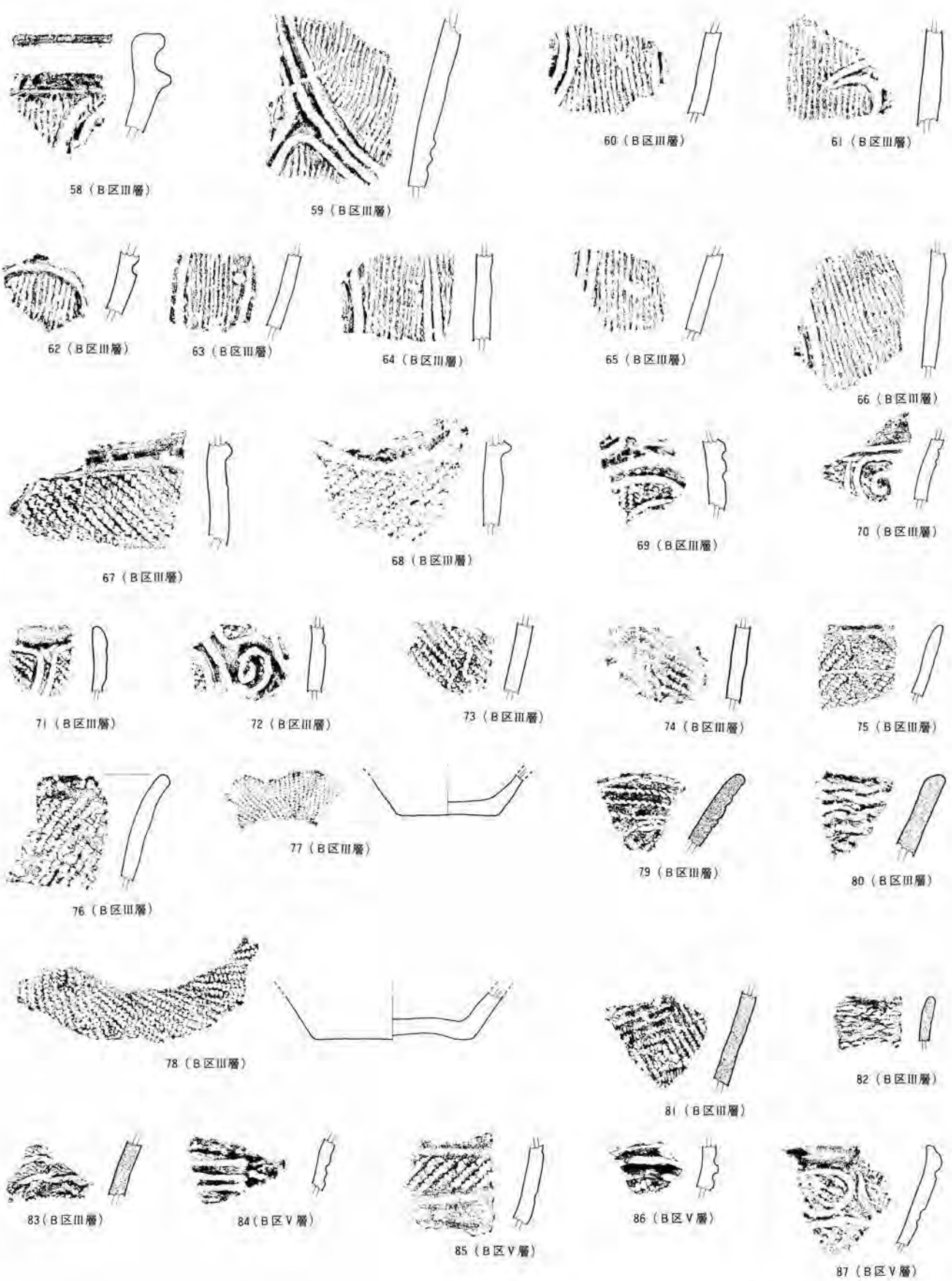
56 (B区III層)



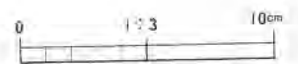
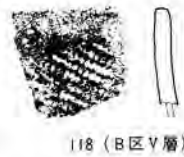
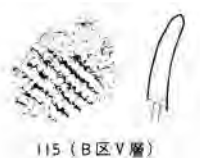
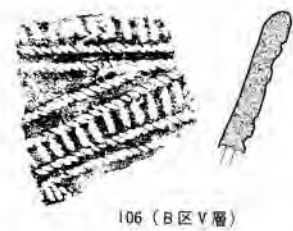
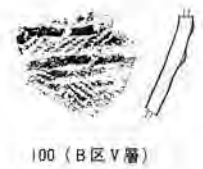
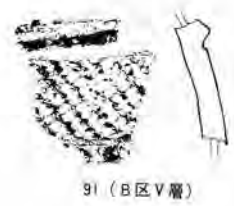
57 (B区III層)



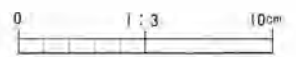
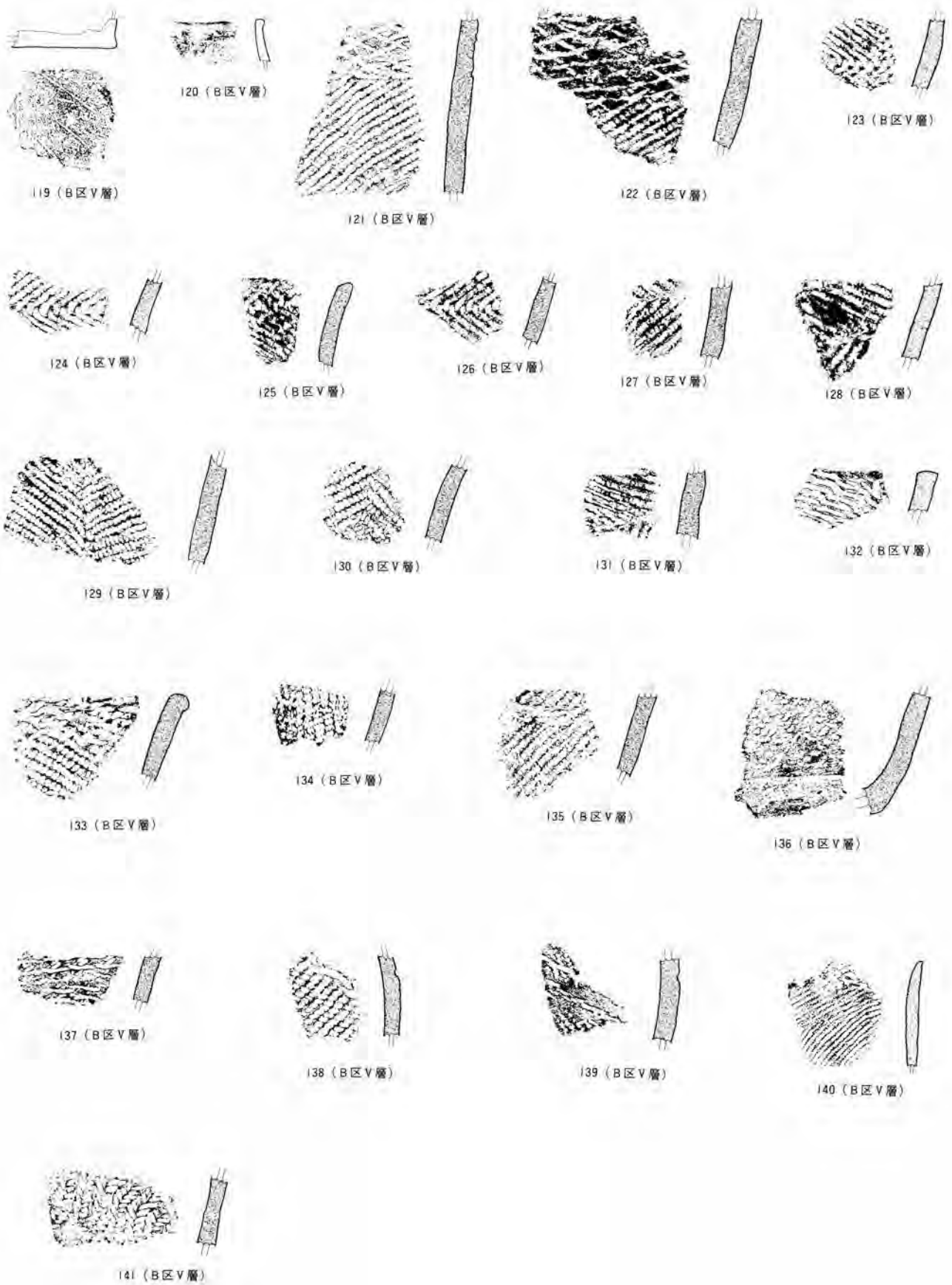
第18图 遺構外出土遺物(I)



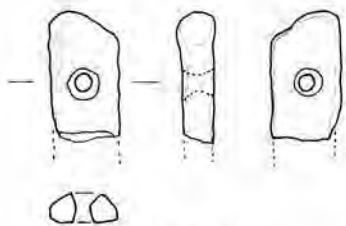
第19图 遺構外出土遺物(2)



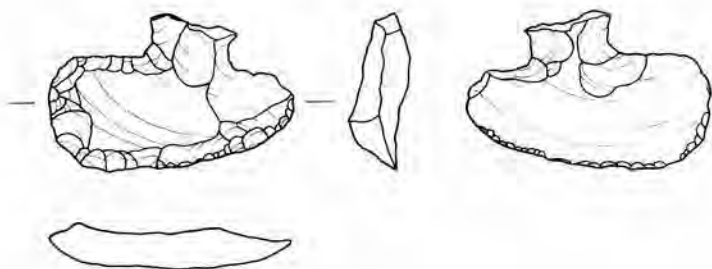
第20図 遺構外出土遺物(3)



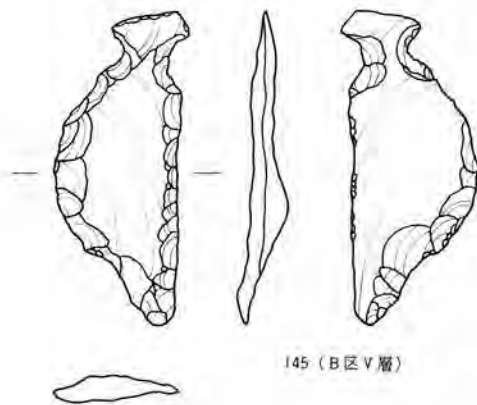
第21图 遺構外出土遺物(4)



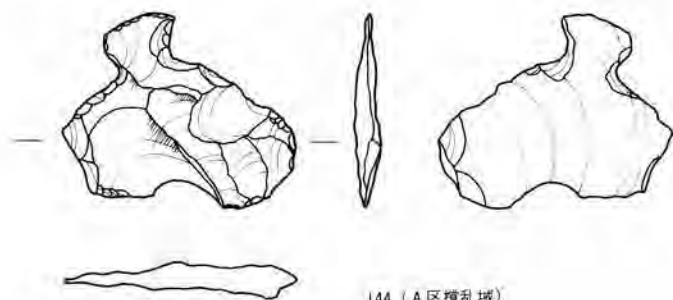
142 (A区AⅢ層)



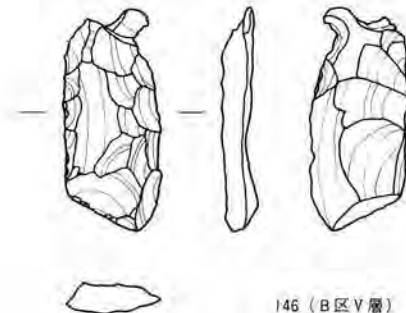
143 (A区AⅢ層)



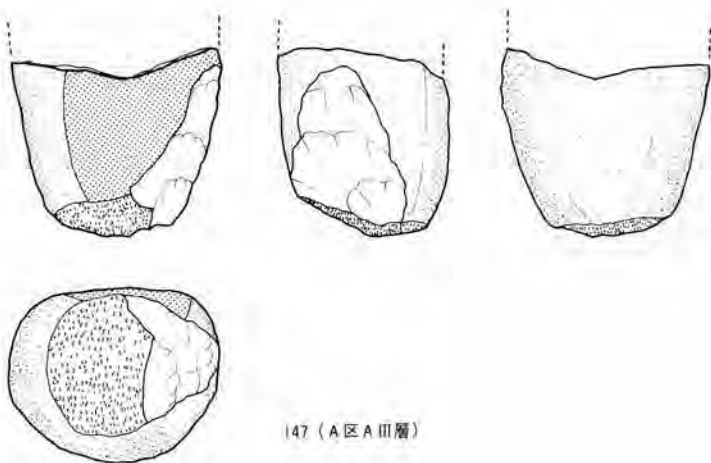
145 (B区V層)



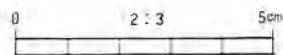
144 (A区扰乱域)



146 (B区V層)



147 (A区AⅢ層)



第22図 遺構外出土遺物(5)

84は深鉢の口縁部と思われる。貼瘤状に粘土を貼り、2条の沈線を巡らす。縄文後期に相当する。

85は深鉢の胴部で、磨消し縄文を伴う。大木9式に相当する。

86～92は深鉢の口縁部と胴部で、いずれも隆沈線による施文である。92はLRLの複節縄文を地文とする。93、94、102は地文は撚糸文で、隆沈線による施文である。95、96は細かい縄文に沈線のみによる施文である。97は隆沈線による施文。86～97は大木9式に相当する。

98～101は、隆起線より施文されたもので、大木8a～8b式に相当するものと思われる。103は、体部に粘土紐を環状に貼付け、その上に刻目を施す。104は、S字状連鎖文、105は不整撚糸文による施文である。106～108は、原体圧痕と刺突文による区画文、渦巻文の施文を特徴とする。上川名II式に相当するものと思われる。

109は貝殻腹縁圧痕文を施される。

110は木目状撚糸文、111、114は沈線と刺突文による施文である。115～118は、深鉢の口縁部で、縄文を縄文を地文とし、口唇部は無文である。119は、深鉢の底部で、木葉痕をもつ。120は小形深鉢の薄い口縁部、無文である。

121、122は深鉢の口縁部で、格子状網目文を施文される。123～131は結束する羽状縄文である。132、133は深鉢の口縁部で、不整撚糸文を施文される。137～140は、撚糸と縄文による施文である。141は縄文による施文である。

142～147は石器および石製品である。

142は穿孔された板状の石製品で、両側から穿孔している。幅1.3cm、厚さ0.6cm、残長2.5cmを測り、垂れ飾りと思われる。143、144は横形石匙。143は両面に第1次剝離面を残し、下端部の片面を調整する。144は片面に第1次剝離面を残す。片面の調整である。145、146は縦形石匙である。145は両面に第1次剝離面を大きく残し、側縁部は両面から加工されている。146は片面に第1次剝離面を残し、両面から加工されている。下端部は欠損しているが、片面に剝離痕をもつ。作りが雑であり、未製品の可能性もある。

147は、敲打磨石である。先端部に敲打痕と剝離痕をもち、1側縁を機能磨面とする。

IV 調査のまとめ

今回調査を実施した区域は、早稲栃Ⅱ遺跡の南端部にあたる。A区、B区で検出された遺構、遺物について確認されたことについて記してまとめたい。

<A区>

集石

第1次調査で配石遺構であろうと想定された集石は、第2次調査で自然のものであることが判明した。

第2号、第3号炉跡

周辺の遺物からともに縄文時代中期中葉に相当するものであることが判明したが、周辺で柱穴跡が検出されたものの、住居に伴ったものかどうかは確認できなかった。

第1号住居跡

検出面、埋土遺物などからみて、第1号、第2号炉跡よりは古い時期のものである事は確認されたが、時期は特定できなかった。

土壌跡

3基検出された土壌は、いずれも炉跡より古い時期のものであるが、時期は特定できず、遺構の性格も不明である。

第1号墓塚跡

共伴遺物もなく時代は特定できなかった。検出面がⅡ層上面であり、また当遺跡内あるいは周辺域で近年まで馬が飼われていたという話が伝えられており、かなり新しい時期も含めて考える必要がある。

<B区>

遺物包含層

Ⅲ層からは、縄文時代前期前葉～中期末葉にかけての土器が出土したが、大木8b式に相当するものが主体を占める。Ⅴ層からは早期～後期にかけての土器が出土し、やはり大木8b式のもものが主体を占めていることはⅢ層と同じであるが、上川名Ⅱ式、貝殻腹縁圧痕文をもつものが出土しているのが注目される。Ⅴ層から後期の土器が一点検出しており、Ⅲ層、Ⅴ層の層序を明確にすることができなかった。

調査区全体からみた場合、A区の北端からまとまって土器が出土しているのが目立ち、調査区より北に広がる緩斜面に住居跡などの遺構の存在する可能性は大きく、遺構の年代も縄文時代中期まで考えられることが確認された。

早稲栃Ⅱ遺跡は、「崎山遺跡群」に隣接することは前述した通りであるが、年代的にも重なる部分も大きく、「崎山遺跡群」の文化圏の広がりを知るうえで大変興味深い位置にあると思われる。

写 真 图 版



調査区全景（東から）



A区（第1次調査）

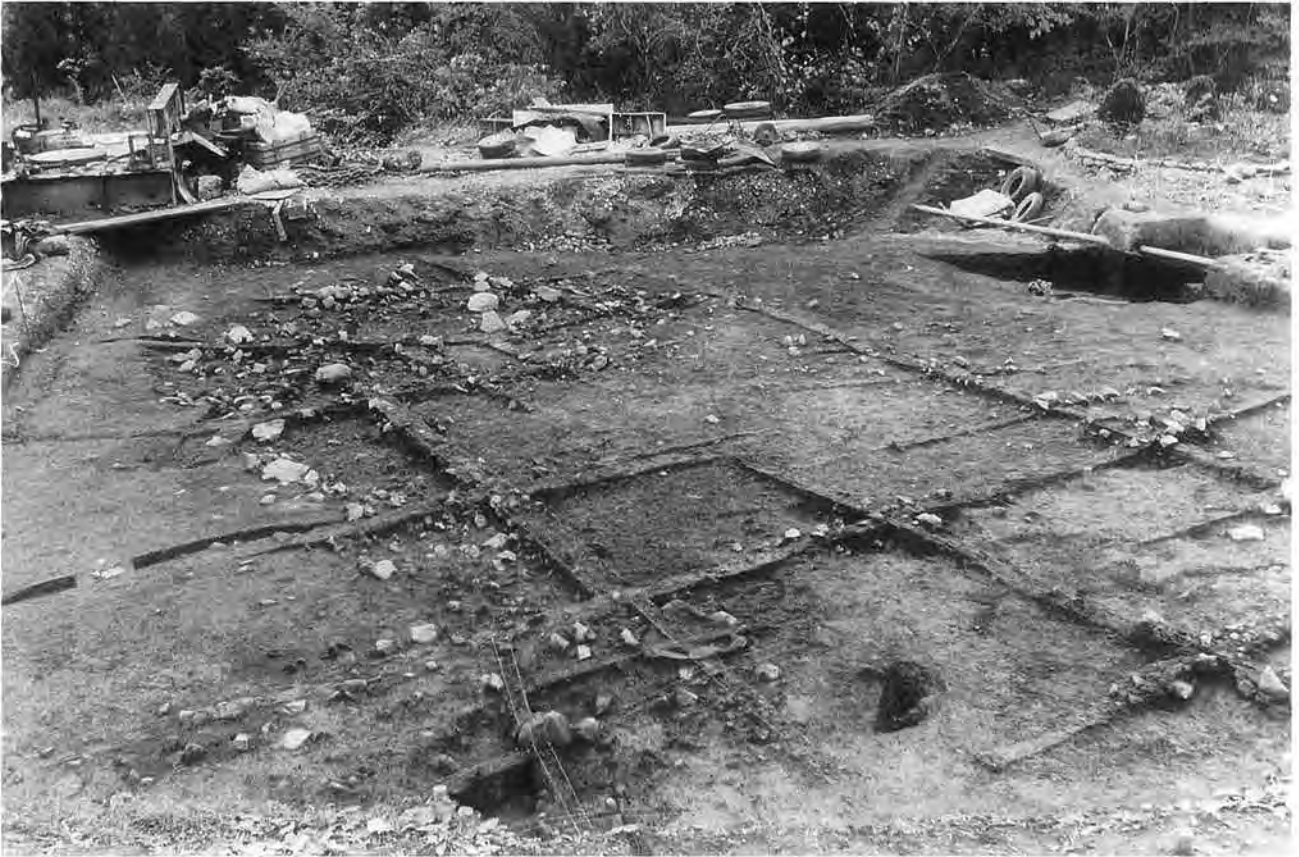
第2図版



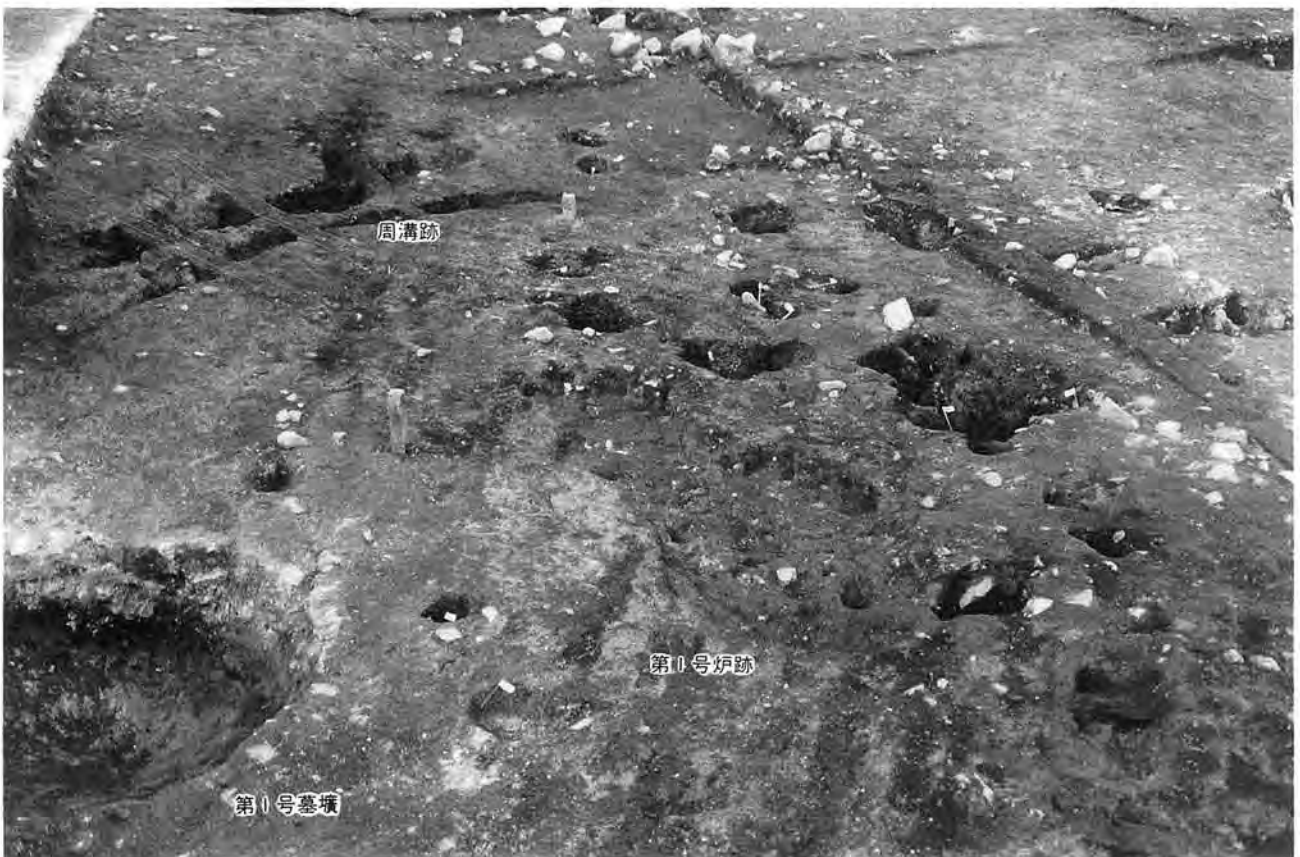
B区（第1次調査）



遺物出土状況（第2号炉跡周辺）

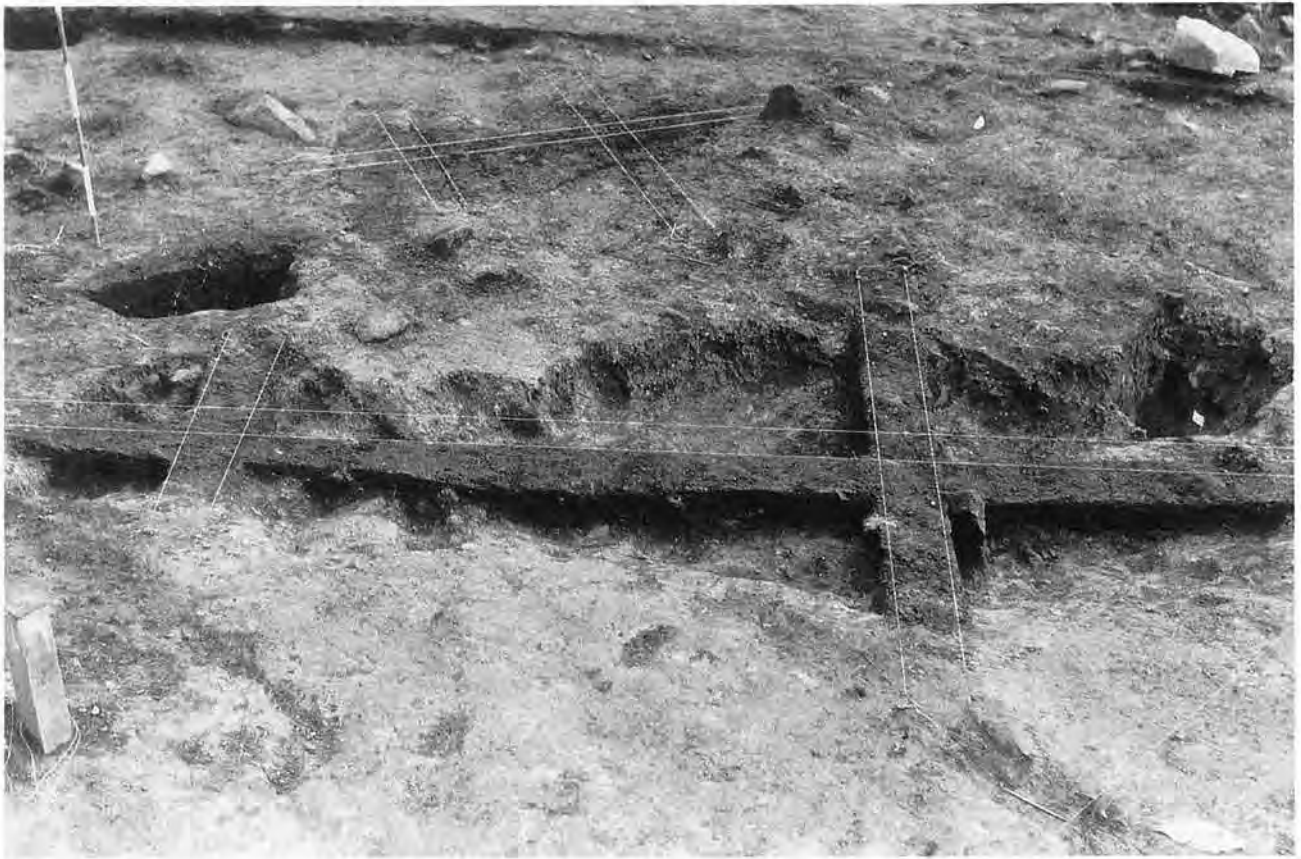


第2次調査区（北から）



第1号竪穴住居跡

第4图版



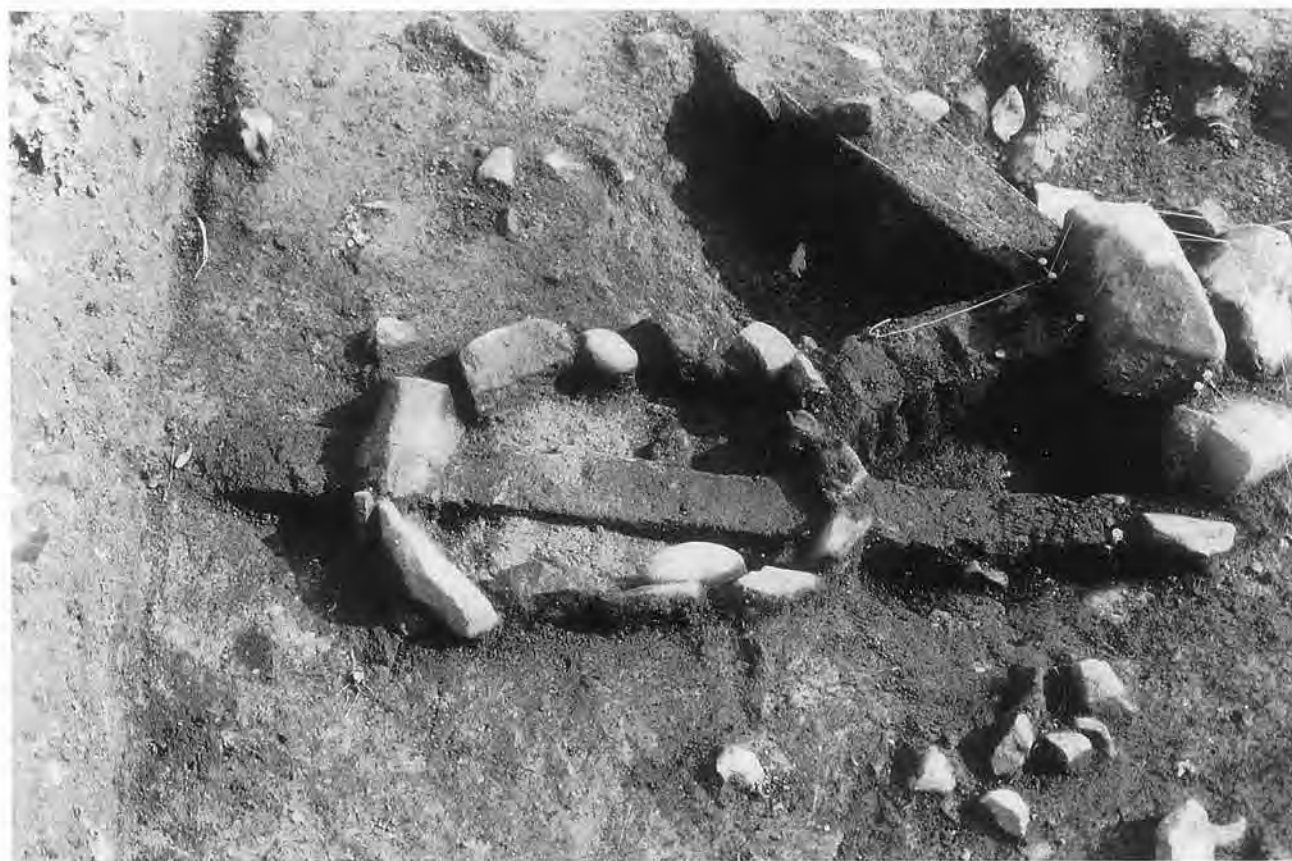
第 I 号炉跡



第 I 号炉跡、炉 I、II



第2号炉迹、第3号炉迹



第2号炉迹

第6図版



第3号炉跡



土坑跡と柱穴

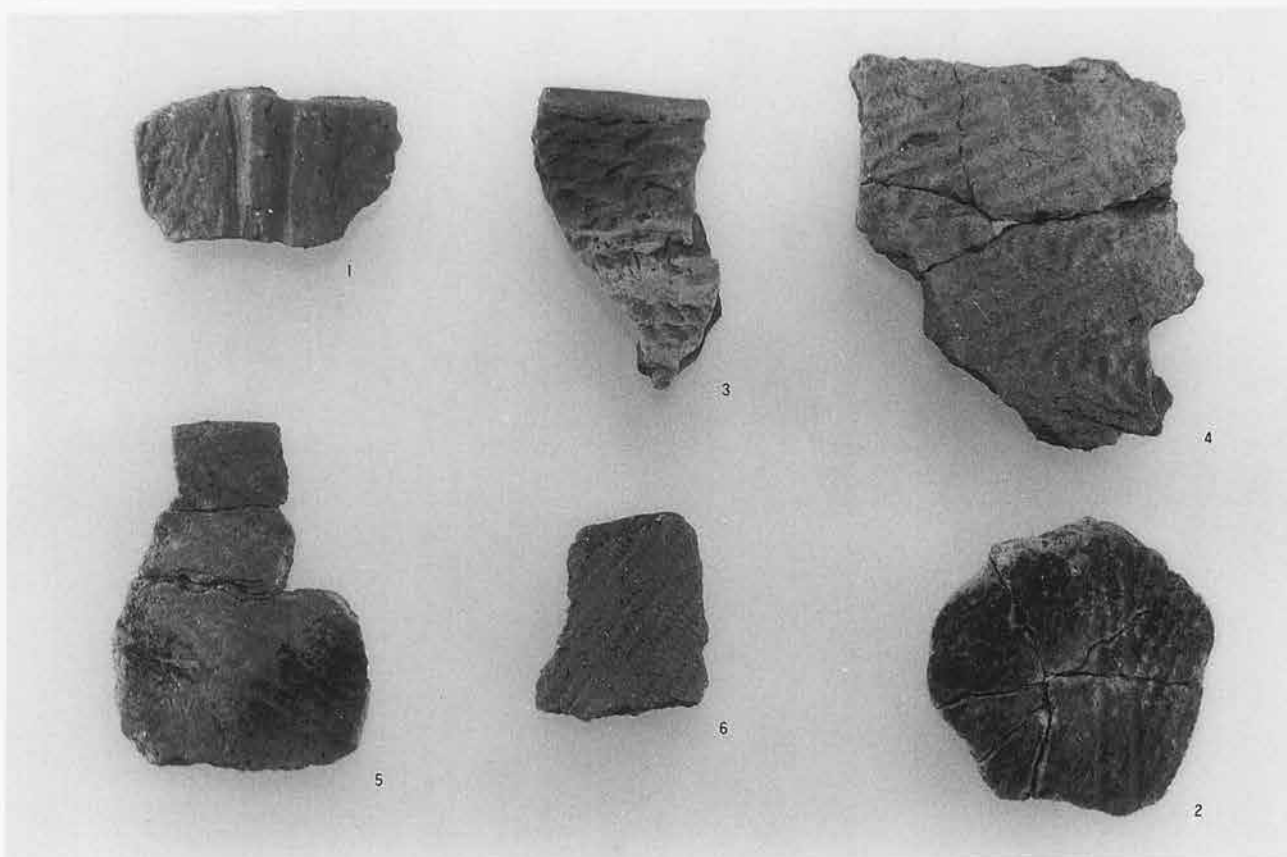


第1号墓坑迹断面



第1号墓坑迹

第8図版

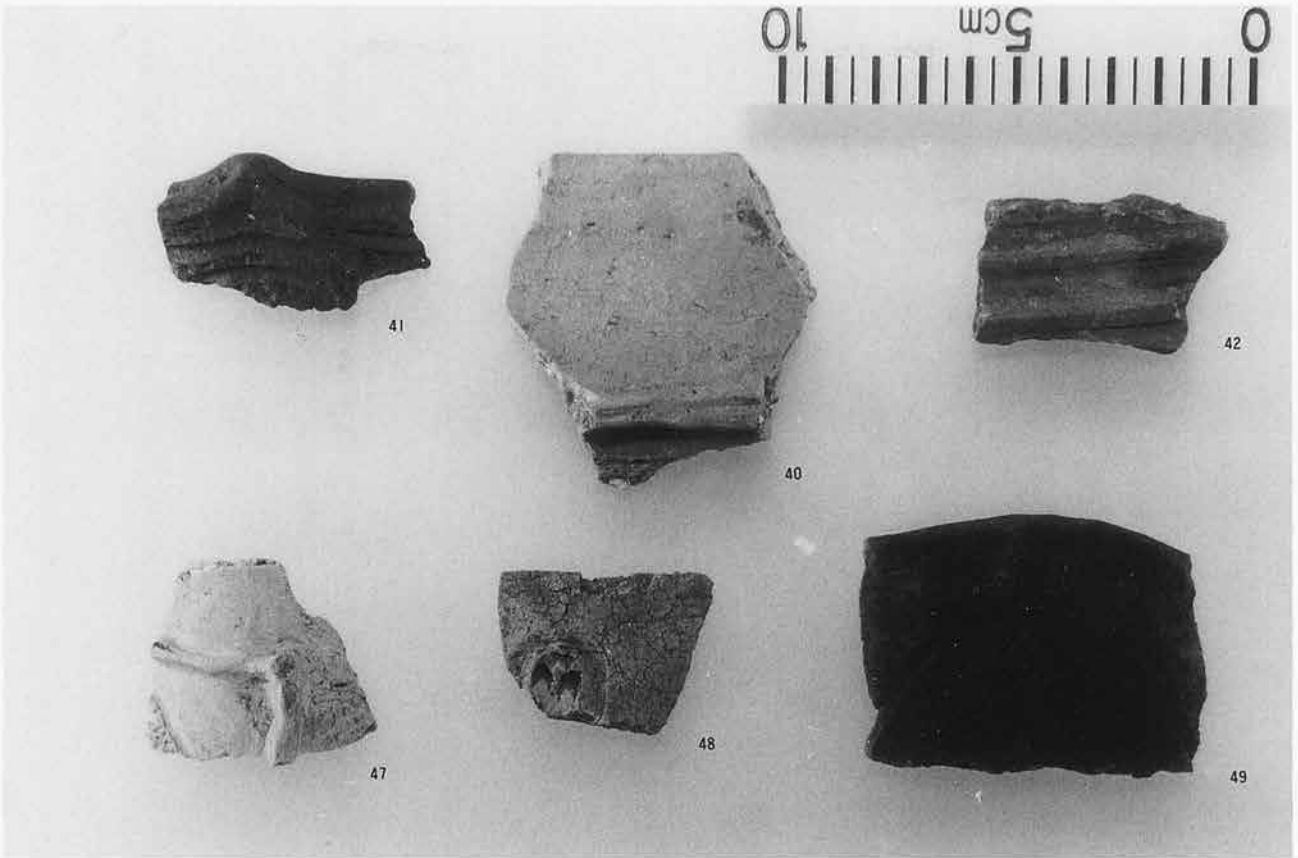


出土遺物

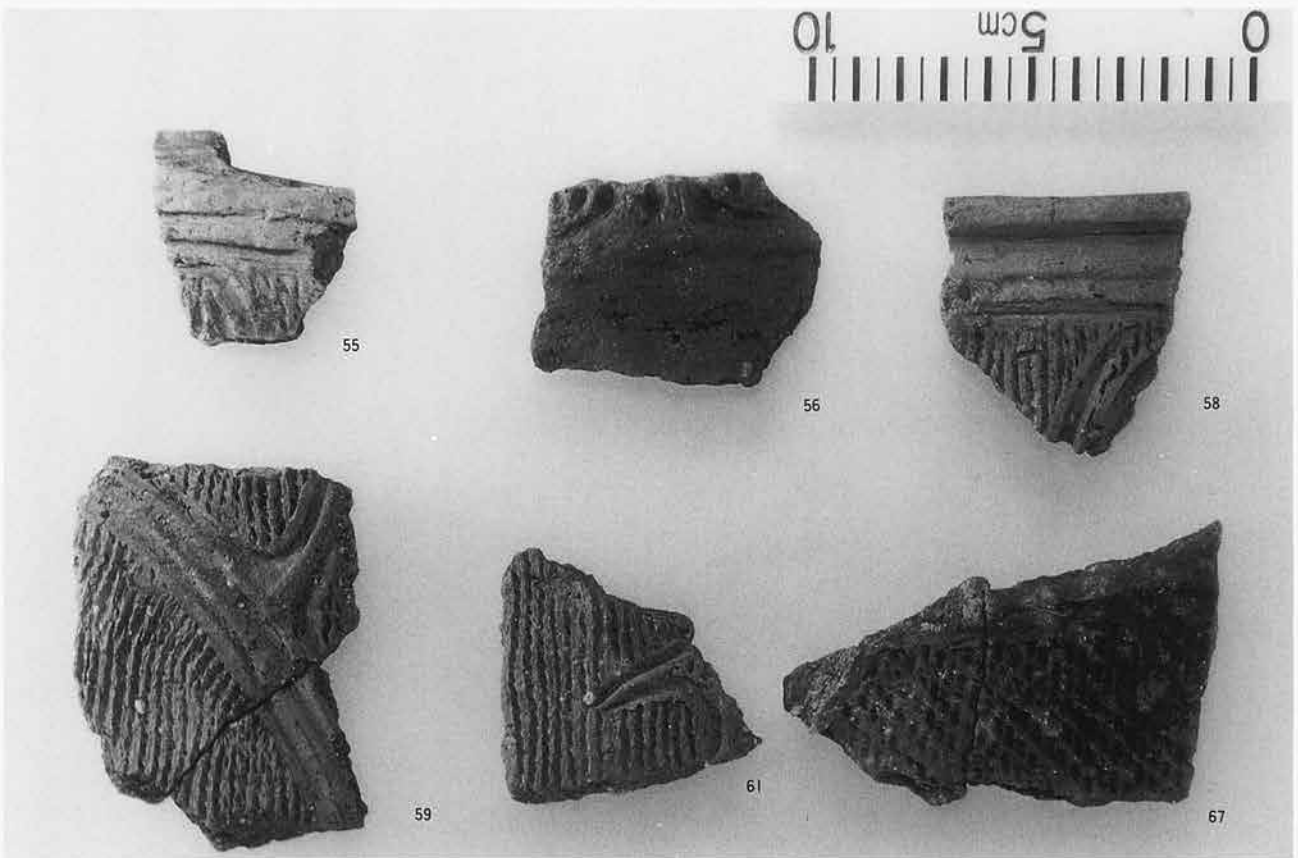


出土遺物

第9図版

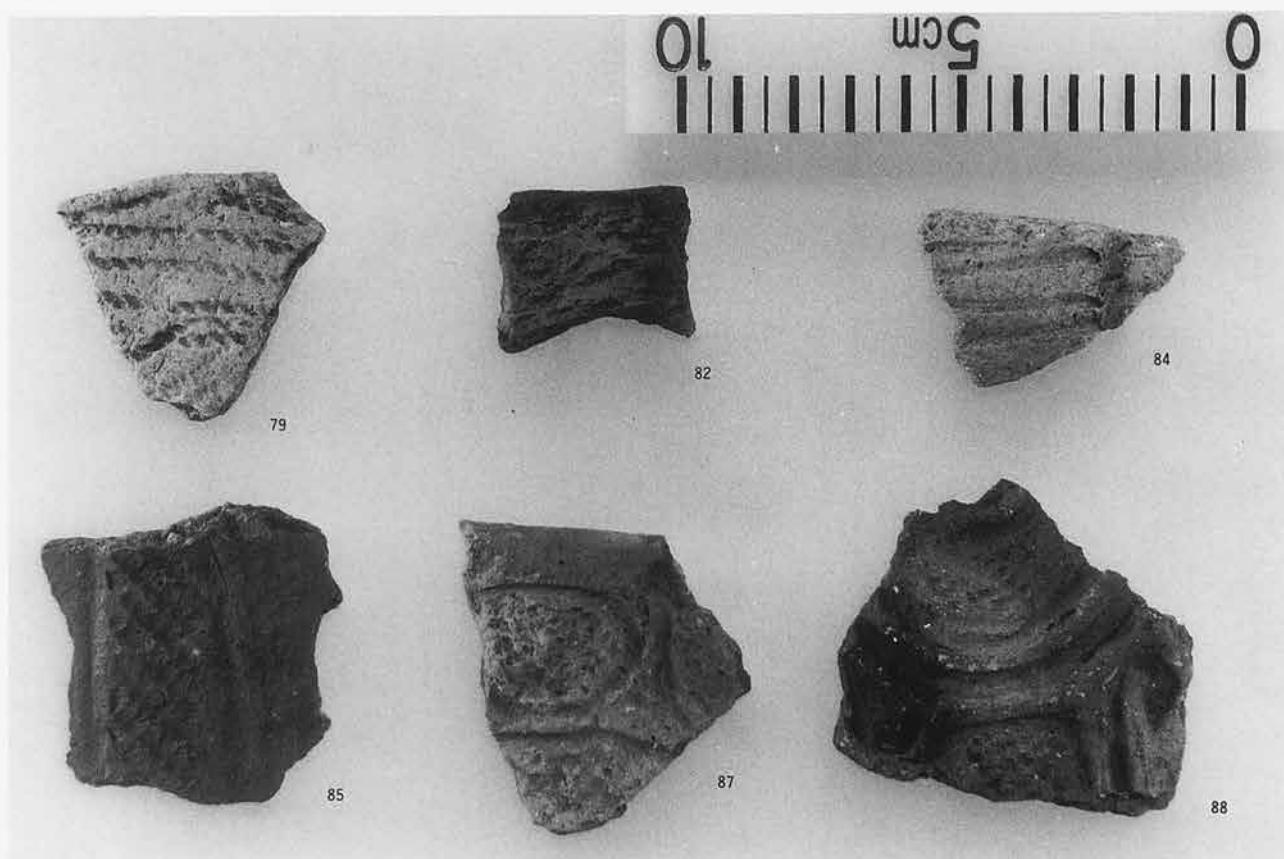


出土遺物



出土遺物

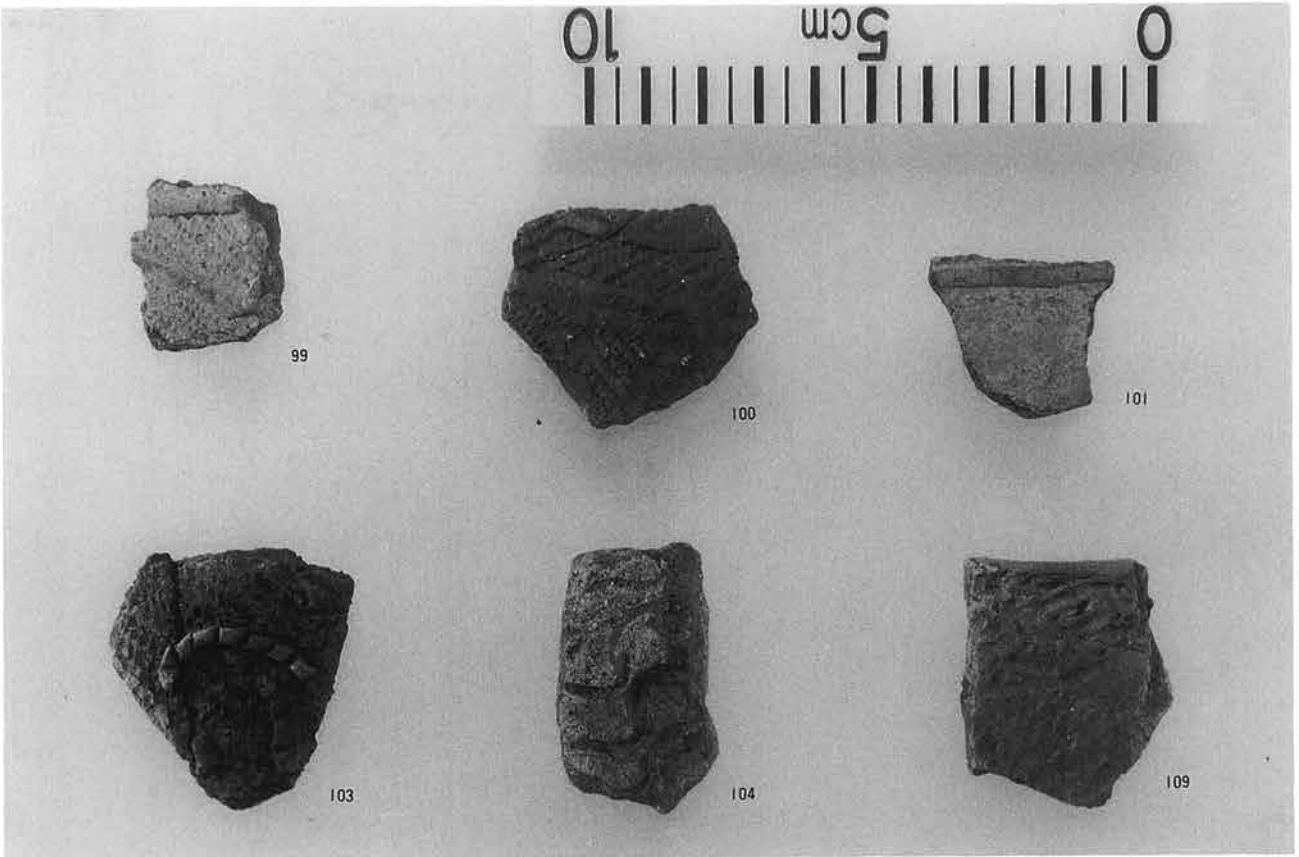
第10図版



出土遺物



出土遺物

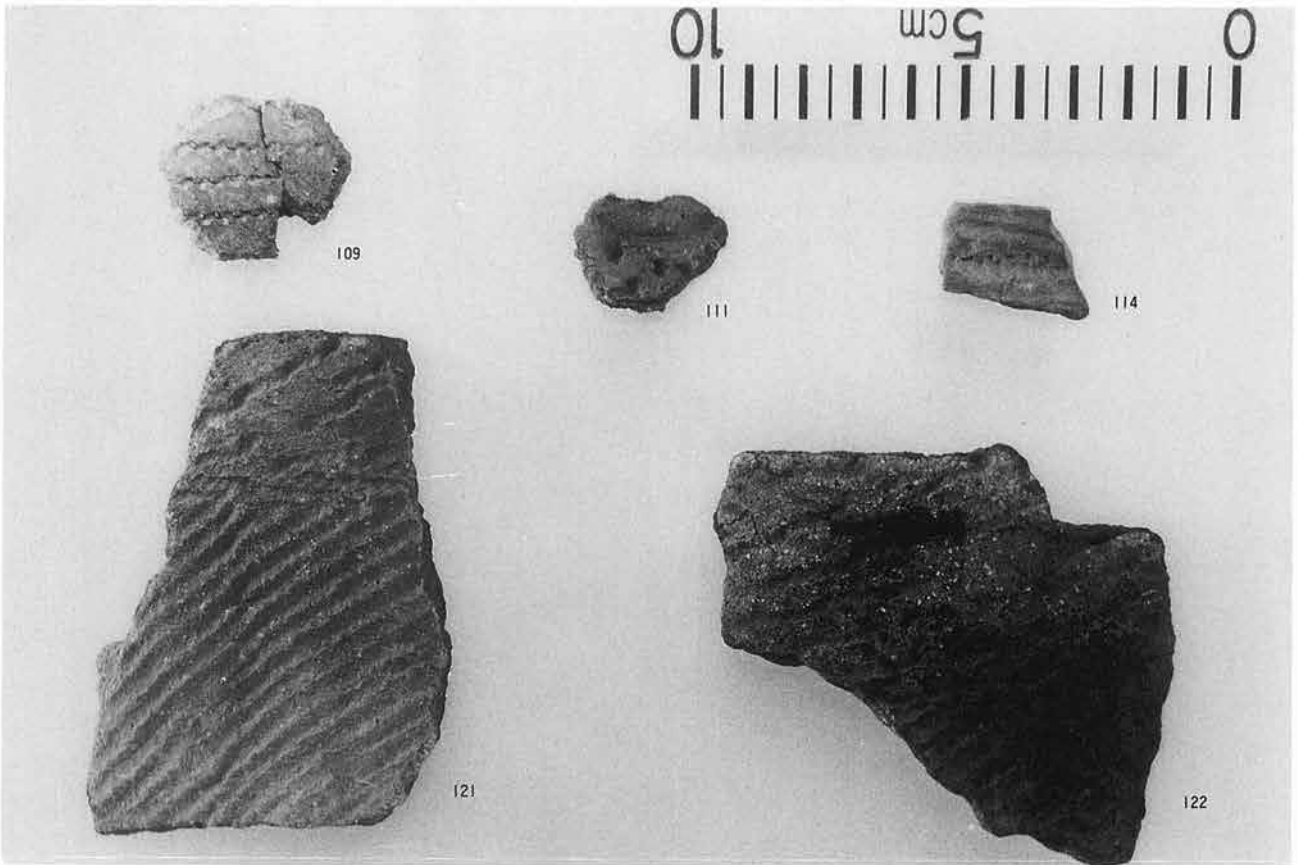


出土遺物

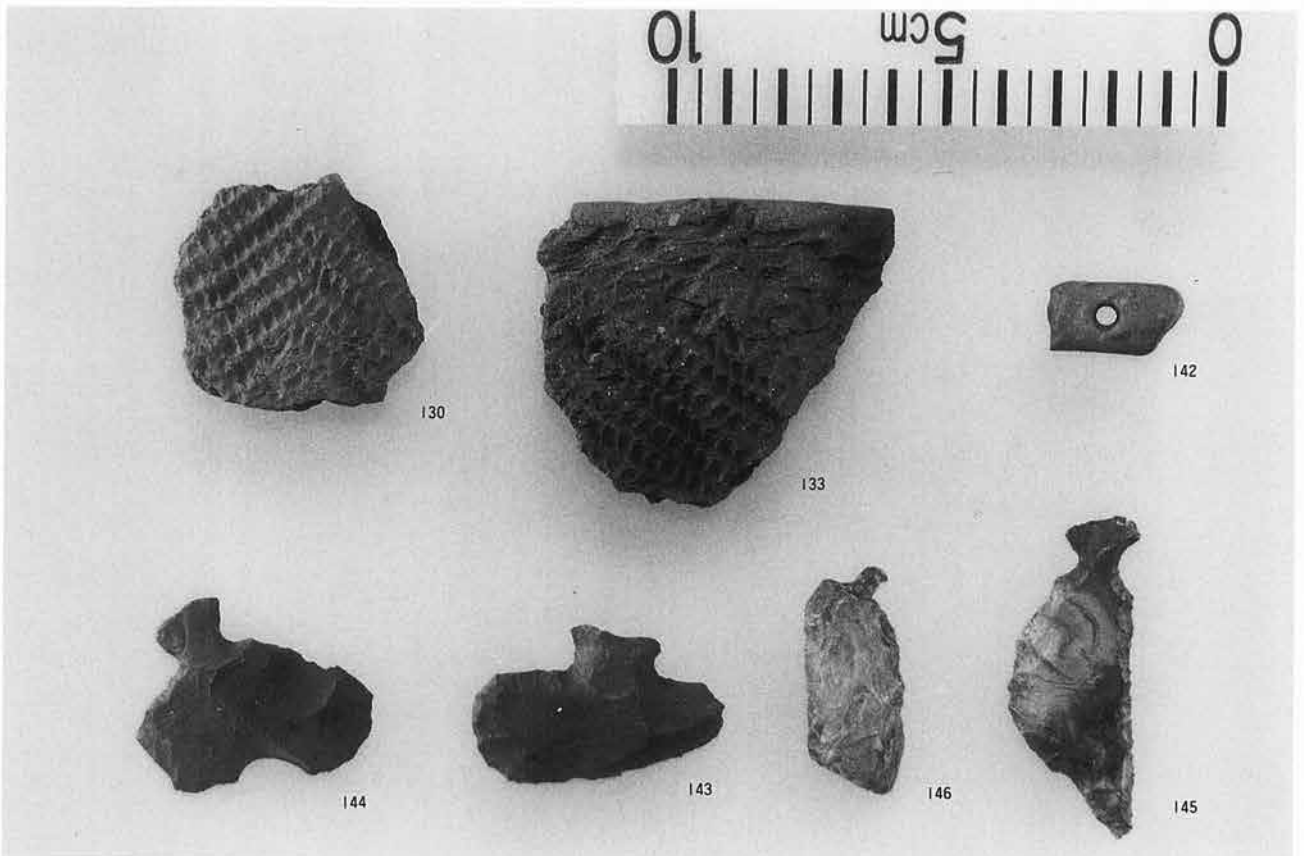


出土遺物

第12図版



出土遺物



出土遺物

宮古市埋蔵文化財調査報告書 39

早稻枋Ⅱ遺跡

—第1次・第2次発掘調査報告書—

1992.3

発行 岩手県宮古市教育委員会
宮古市新川町2番1号

印刷 花坂印刷工業株式会社
宮古市新川町1-2